飯島都市計画基礎調査報告書

（　概　要　版　）

令和３年３月

長野県中川村

目　　次

① 人　口 1
C0101　人口規模 1
C0103　将来人口 4
C0104　人口増減 6
C0105　通勤・通学移動 8

② 産　業 10
C0201　産業・職業大分類別就業者数 10
C0202　事業所数・従業者数・売上金額 17

③ 土地利用 29
C0302　土地利用現況 29
C0304　宅地開発状況 31
C0305　農地転用状況 33
C0307　新築動向 34
C0308　条例・協定 37

④ 建　物 38
C0401　建物用途別現況 38
C0402　大規模小売店舗等の立地状況 44

⑤ 都市施設 45
C0501　都市施設の位置、内容等 45

⑥ 交　通 46
C0601　主要な幹線の断面交通量・混雑度・旅行速度 46
C0603　鉄道・路面電車等の状況 47
C0604　バスの状況 47

⑦ 地　価 48
C0701　地価の状況 48

⑧ 自然的環境等 49
C0802　気象状況 49
C0803　緑の状況 51

⑨ 公害及び災害 52
C0901　災害の発生状況 52
C0902　防災拠点・避難場所 53

○　数字の表章単位未満は、四捨五入を原則としている。したがって、総数と内容の計が一致しない場合がある。

○　図表中や図表名、資料名に時点の記載がない場合は、令和元年の値である。

① 人　口

C0101　人口規模

C0101-1　人口総数及び増加数

中川村の行政区域の人口推移をみると、減少傾向が続いており、平成 27 年には 4,850 人となっている。

また、用途地域指定区域の人口は平成 12 年をピークに減少に転じ、平成 27 年には 1,396 人となっている。用途地域指定外区域の人口は、行政区域の人口と同様に減少傾向が続いており、平成 27 年に 3,454 人となっている。

平成 7 年から平成 27 年までの 20 年間では、行政区域で 664 人減（12.0%減）、用途地域指定区域で 54 人増（4.0%増）、用途地域指定外区域で 718 人減（17.2%減）となっており、用途地域指定外区域での減少率が大きい。

表 1　人口推移

区　域	H７	H７～H12の増減		H12	H12～H17の増減		H17	H17～H22の増減		H22	H22～H27の増減		H27
	人口（人）	人口（人）	率（%）	人口（人）	人口（人）	率（%）	人口（人）	人口（人）	率（%）	人口（人）	人口（人）	率（%）	人口（人）
行政区域	5,514	▲ 39	▲ 0.7	5,475	▲ 212	▲ 3.9	5,263	▲ 189	▲ 3.6	5,074	▲ 224	▲ 4.4	4,850
都市計画区域	5,514	▲ 39	▲ 0.7	5,475	▲ 212	▲ 3.9	5,263	▲ 189	▲ 3.6	5,074	▲ 224	▲ 4.4	4,850
用途地域指定区域	1,342	195	14.5	1,537	▲ 2	▲ 0.1	1,535	▲ 84	▲ 5.5	1,451	▲ 55	▲ 3.8	1,396
用途地域指定外区域	4,172	▲ 234	▲ 5.6	3,938	▲ 210	▲ 5.3	3,728	▲ 105	▲ 2.8	3,623	▲ 169	▲ 4.7	3,454

資料：国勢調査

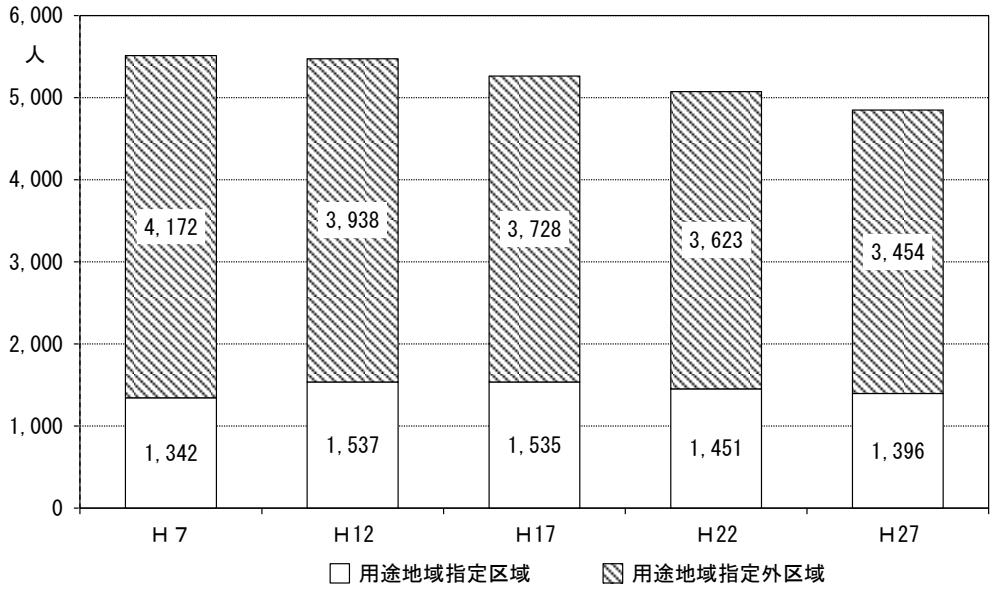


図 1　用途地域内外別人口推移

C0101-2　年齢・性別人口

平成 27 年の５歳階級別人口をみると、60 歳代の人口が多く、15 歳から 20 歳代の人口が少なくなっている。そのほかの年代は、男女とも 30～50 歳代は約 140 人前後、14 歳以下は約 100 人前後となっており、70 歳代以上は年齢とともに減少している。また、平成７年と平成 27 年の人口ピラミッドを比較すると、高年齢層の人口の厚みが増し、若年層の人口の厚みが薄くなっており、少子高齢化の進行がうかがえる。

平成７年から平成 27 年の年齢３区分別人口構成比の推移をみると、年少人口は減少傾向にあるものの、平成 27 年にやや増加し、13.4％となっている。生産年齢人口は、平成 22 年までは緩やかに減少していたが、平成 22 年は 57.0％、平成 27 年は 53.3％と過去５年間の減少幅（3.7％減）が大きくなっている。老年人口は増加し続けており、平成 27 年で 33.4％となっている。

表 2　５歳階級別年齢・性別人口推移

単位：人

年令	平成７年			平成１２年			平成１７年			平成２２年			平成２７年		
階層	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0～ 4	325	145	180	205	108	97	204	99	105	206	102	104	191	87	104
5～ 9	324	174	150	336	152	184	218	121	97	219	112	107	225	102	123
10～14	385	212	173	345	181	164	341	157	184	221	124	97	233	119	114
年少人口	1, 034	531	503	886	441	445	763	377	386	646	338	308	649	308	341
15～19	323	170	153	320	179	141	272	144	128	278	121	157	168	92	76
20～24	226	108	118	223	118	105	223	124	99	177	84	93	175	79	96
25～29	260	129	131	280	127	153	240	130	110	219	129	90	181	94	87
30～34	270	129	141	275	142	133	254	122	132	247	127	120	245	126	119
35～39	338	155	183	279	135	144	254	126	128	263	133	130	272	130	142
40～44	391	209	182	357	162	195	292	141	151	270	133	137	264	134	130
45～49	387	202	185	397	206	191	357	163	194	285	141	144	270	131	139
50～54	330	162	168	394	201	193	387	201	186	351	162	189	274	130	144
55～59	339	167	172	338	167	171	413	206	207	392	202	190	344	161	183
60～64	350	173	177	338	163	175	358	174	184	410	201	209	390	205	185
生産年齢人口	3, 214	1, 604	1, 610	3, 201	1, 600	1, 601	3, 050	1, 531	1, 519	2, 892	1, 433	1, 459	2, 583	1, 282	1, 301
65～69	372	170	202	352	169	183	335	163	172	351	175	176	410	198	212
70～74	345	157	188	356	158	198	328	151	177	323	152	171	336	172	164
75～79	242	98	144	317	139	178	317	132	185	300	130	170	288	132	156
80～84	184	64	120	193	80	113	247	97	150	264	101	163	262	108	154
85～89	91	34	57	123	36	87	141	50	91	204	75	129	183	63	120
90～	32	7	25	47	14	33	82	24	58	94	29	65	139	37	102
老年人口	1, 266	530	736	1, 388	596	792	1, 450	617	833	1, 536	662	874	1, 618	710	908
総　計	5, 514	2, 665	2, 849	5, 475	2, 637	2, 838	5, 263	2, 525	2, 738	5, 074	2, 433	2, 641	4, 850	2, 300	2, 550

資料：国勢調査

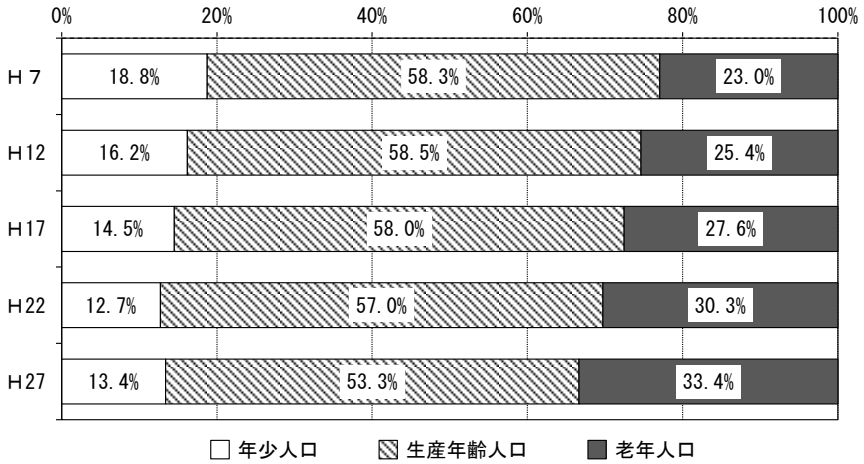
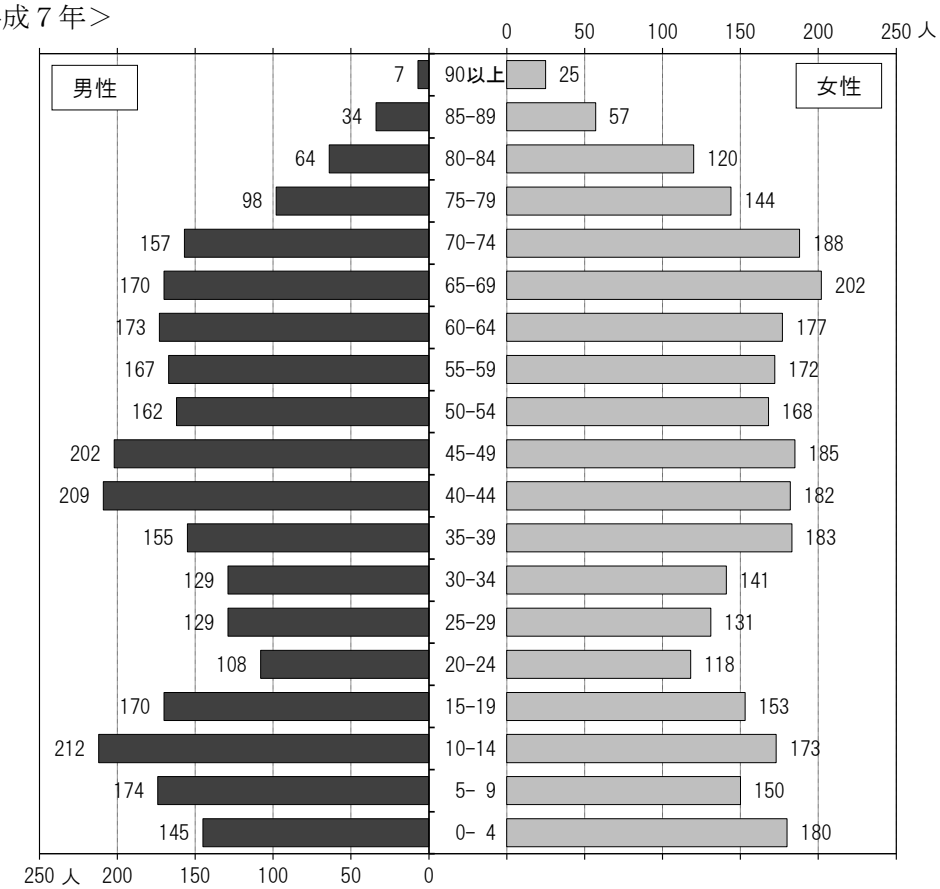


図 2　年齢３区分別人口構成比の推移

＜平成７年＞



＜平成 27 年＞

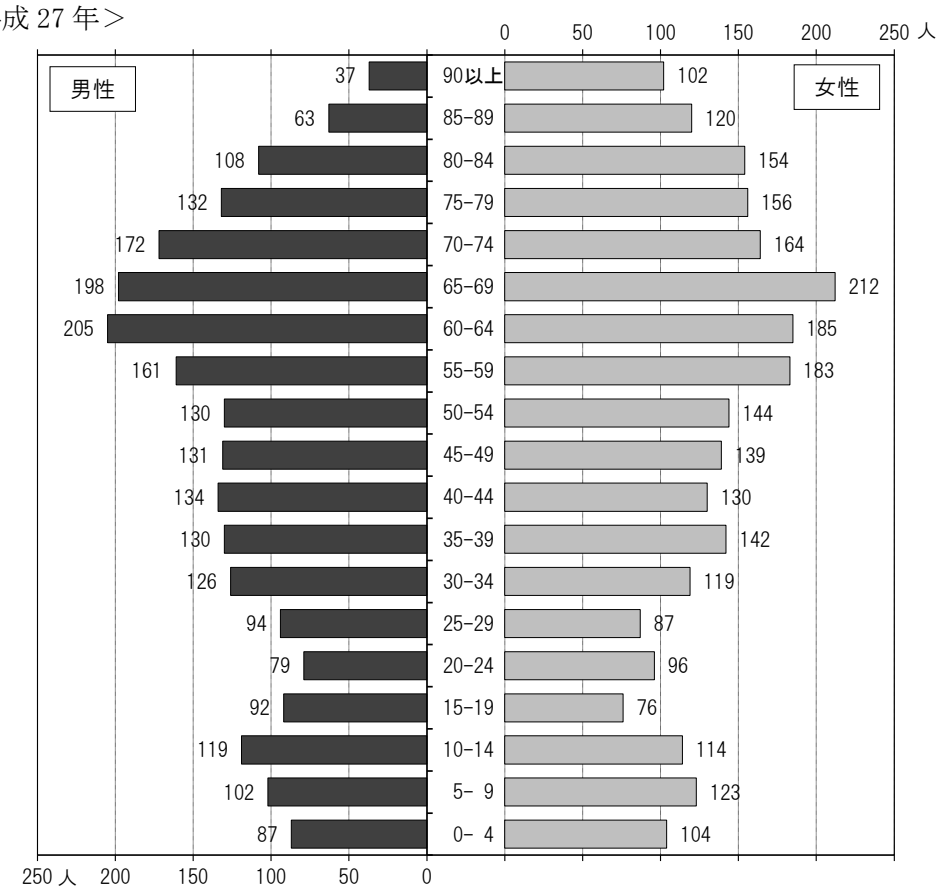


図 3　５歳階級別年齢・性別人口

C0103　将来人口

国立社会保障・人口問題研究所による中川村の推計人口では減少が続き、令和 27 年には 3,288 人になると推計されている。年齢３区分別人口をみると、平成 27 年から令和 27 年の増減は、年少人口が 287 人減（44.2%減）、生産年齢人口が 1,127 人減（43.6%減）、老年人口が 148 人減（9.1%減）と推計されている。

表 3　５歳階級別人口推計

単位：人

	平成２７年（実績値）（2015年）			令和２年（2020年）			令和７年（2025年）			令和１２年（2030年）		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0～ 4	191	87	104	173	89	84	158	81	77	141	72	69
5～ 9	225	102	123	198	93	105	180	95	85	165	87	78
10～14	233	119	114	237	108	129	210	99	111	192	101	91
年少人口	649	308	341	608	290	318	548	275	273	498	260	238
15～19	168	92	76	177	88	89	180	80	100	160	73	87
20～24	175	79	96	107	60	47	113	58	55	115	53	62
25～29	181	94	87	180	91	89	115	70	45	121	68	53
30～34	245	126	119	187	92	95	186	90	96	122	70	52
35～39	272	130	142	242	127	115	189	95	94	186	92	94
40～44	264	134	130	273	129	144	244	126	118	191	95	96
45～49	270	131	139	262	132	130	272	128	144	241	123	118
50～54	274	130	144	270	131	139	263	132	131	272	128	144
55～59	344	161	183	275	129	146	274	132	142	265	132	133
60～64	390	205	185	341	163	178	274	132	142	273	135	138
生産年齢人口	2,583	1,282	1,301	2,314	1,142	1,172	2,110	1,043	1,067	1,946	969	977
65～69	410	198	212	385	200	185	339	161	178	274	131	143
70～74	336	172	164	391	186	205	367	188	179	323	151	172
75～79	288	132	156	308	152	156	361	166	195	339	168	171
80～84	262	108	154	254	111	143	273	129	144	325	143	182
85～89	183	63	120	201	72	129	198	76	122	215	90	125
90歳以上	139	37	102	157	40	117	176	45	131	186	50	136
老年人口	1,618	710	908	1,696	761	935	1,714	765	949	1,662	733	929
総　計	4,850	2,300	2,550	4,618	2,193	2,425	4,372	2,083	2,289	4,106	1,962	2,144

	令和１７年（2035年）			令和２２年（2040年）			令和２７年（2045年）		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
0～ 4	126	65	61	114	58	56	100	51	49
5～ 9	148	78	70	132	70	62	120	63	57
10～14	177	93	84	158	83	75	142	75	67
年少人口	451	236	215	404	211	193	362	189	173
15～19	146	75	71	134	69	65	121	62	59
20～24	101	48	53	93	49	44	85	45	40
25～29	122	62	60	109	57	52	102	59	43
30～34	130	68	62	133	63	70	119	58	61
35～39	123	72	51	132	71	61	135	65	70
40～44	189	93	96	127	73	54	136	72	64
45～49	191	94	97	189	92	97	127	73	54
50～54	243	124	119	193	95	98	190	92	98
55～59	275	128	147	245	124	121	195	95	100
60～64	266	136	130	275	132	143	246	128	118
生産年齢人口	1,786	900	886	1,630	825	805	1,456	749	707
65～69	274	135	139	266	135	131	276	131	145
70～74	263	124	139	264	128	136	256	128	128
75～79	301	136	165	246	112	134	246	115	131
80～84	304	145	159	272	118	154	225	99	126
85～89	260	101	159	241	102	139	222	85	137
90歳以上	203	59	144	243	70	173	245	72	173
老年人口	1,605	700	905	1,532	665	867	1,470	630	840
総　計	3,842	1,836	2,006	3,566	1,701	1,865	3,288	1,568	1,720

資料：平成 27 年国勢調査、日本の地域別将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所、平成 30 年推計）

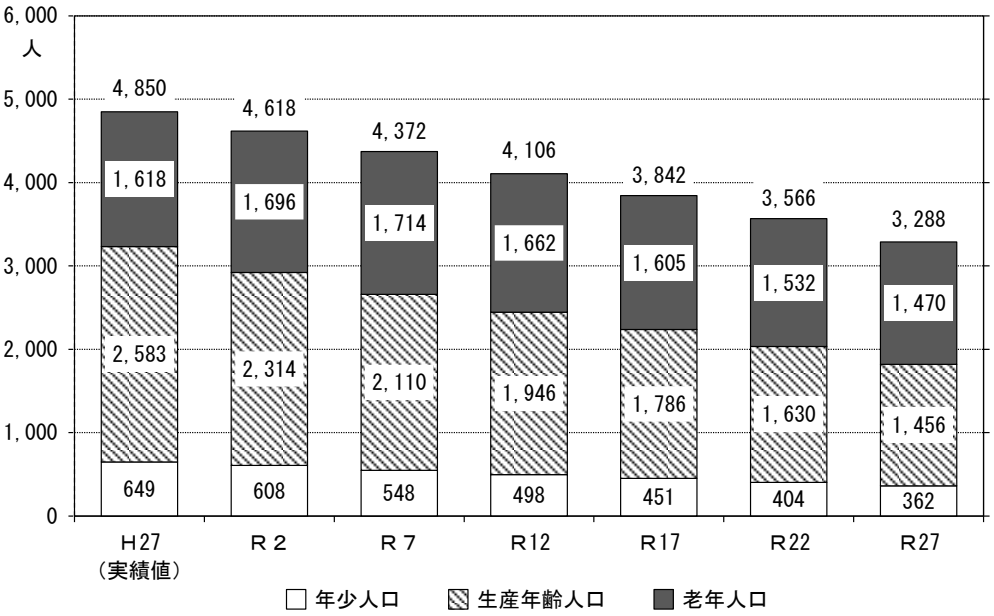
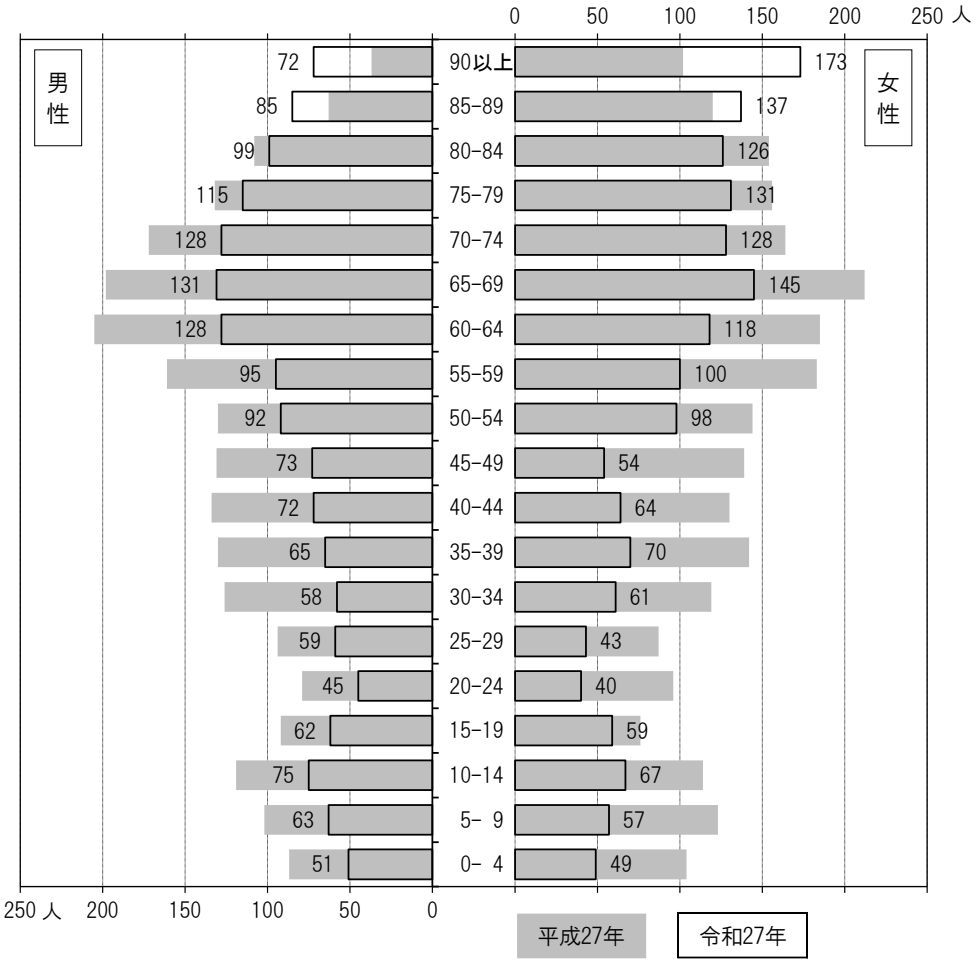


図 4　年齢３区分別将来人口推計



注）数値は令和 27 年

図 5　５歳階級別将来人口推計

C0104　人口増減

行政区域の平成７年から令和元年までの期間における人口増減数は、798 人減となっており、平成 16 年以降は減少が続いている。

自然動態については、平成 11 年以降、出生数が死亡者数を下回る自然減の状態が続いており、近年は毎年 20 人前後の減少となっている。出生数は増減を繰り返しているものの、緩やかな減少傾向にあり、平成 26 年以降は 30 人程度にとどまっている。

一方、社会動態については、平成 15 年頃までは社会増となっている年が多かったが、それ以降は社会減の年が多く、平成 18 年や平成 22 年など大幅な社会減となる年が目立つ。

表 4　人口動態推移

単位：人

		H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
行政区域・都市計画区域	自然増減	5	9	▲ 26	5	▲ 22	▲ 7	▲ 38	▲ 23	▲ 11	▲ 27	▲ 19	▲ 7	▲ 28
	出生数	57	44	35	48	31	44	28	33	44	34	44	41	38
	死亡者数	52	35	61	43	53	51	66	56	55	61	63	48	66
	社会増減	3	16	17	▲ 46	12	57	▲ 45	5	20	▲ 36	1	▲ 49	▲ 21
	転入者数	167	177	185	136	152	194	180	155	201	155	225	196	196
	転出者数	164	161	168	182	140	137	225	150	181	191	224	245	217
	（その他増減）	1	▲ 1	3	2	0	▲ 3	▲ 2	▲ 8	0	▲ 3	2	1	2
	人口増減数	9	24	▲ 6	▲ 39	▲ 10	47	▲ 85	▲ 26	9	▲ 66	▲ 16	▲ 55	▲ 47
	累計		33	27	▲ 12	▲ 22	25	▲ 60	▲ 86	▲ 77	▲ 143	▲ 159	▲ 214	▲ 261

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
行政区域・都市計画区域	自然増減	▲ 14	▲ 35	▲ 24	▲ 21	▲ 28	▲ 14	▲ 24	▲ 25	▲ 36	▲ 25	▲ 19	▲ 18
	出生数	47	30	36	41	31	45	31	29	36	34	30	30
	死亡者数	61	65	60	62	59	59	55	54	72	59	49	48
	社会増減	▲ 35	2	▲ 54	2	7	▲ 8	▲ 16	▲ 41	▲ 17	▲ 40	16	▲ 30
	転入者数	125	146	128	120	152	139	127	110	112	128	153	97
	転出者数	160	144	182	118	145	147	143	151	129	168	137	127
	（その他増減）	1	0	0	0	▲ 3	▲ 7	▲ 2	0	▲ 5	▲ 1	▲ 17	▲ 6
	人口増減数	▲ 48	▲ 33	▲ 78	▲ 19	▲ 24	▲ 29	▲ 42	▲ 66	▲ 58	▲ 66	▲ 20	▲ 54
	累計	▲ 309	▲ 342	▲ 420	▲ 439	▲ 463	▲ 492	▲ 534	▲ 600	▲ 658	▲ 724	▲ 744	▲ 798

		H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
用途地域指定区域	自然増減	1	2	▲ 6	2	▲ 5	▲ 2	▲ 11	▲ 7	▲ 3	▲ 7	▲ 5	▲ 2	▲ 8
	出生数	14	11	9	12	8	12	8	9	12	10	13	12	11
	死亡者数	13	9	15	10	13	14	19	16	15	17	18	14	19
	社会増減	1	4	4	▲ 11	3	16	▲ 12	2	5	▲ 10	1	▲ 14	▲ 6
	転入者数	41	43	45	33	37	54	51	44	56	44	66	57	57
	転出者数	40	39	41	44	34	38	63	42	51	54	65	71	63
	（その他増減）	0	0	1	0	0	▲ 1	▲ 1	▲ 2	0	▲ 1	1	0	1
	人口増減数	2	6	▲ 1	▲ 9	▲ 2	13	▲ 24	▲ 7	2	▲ 18	▲ 3	▲ 16	▲ 13
	累計		8	7	▲ 2	▲ 4	9	▲ 15	▲ 22	▲ 20	▲ 38	▲ 41	▲ 57	▲ 70

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
用途地域指定区域	自然増減	▲ 4	▲ 10	▲ 7	▲ 6	▲ 8	▲ 4	▲ 7	▲ 8	▲ 11	▲ 7	▲ 5	▲ 5
	出生数	14	9	10	12	9	13	9	8	10	10	9	9
	死亡者数	18	19	17	18	17	17	16	16	21	17	14	14
	社会増減	▲ 11	1	▲ 15	0	2	▲ 2	▲ 5	▲ 11	▲ 5	▲ 11	5	▲ 9
	転入者数	36	43	37	34	43	40	36	32	32	37	44	28
	転出者数	47	42	52	34	41	42	41	43	37	48	39	37
	（その他増減）	0	0	0	0	▲ 1	▲ 2	▲ 1	0	▲ 1	0	▲ 5	▲ 2
	人口増減数	▲ 15	▲ 9	▲ 22	▲ 6	▲ 7	▲ 8	▲ 13	▲ 19	▲ 17	▲ 18	▲ 5	▲ 16
	累計	▲ 85	▲ 94	▲ 116	▲ 122	▲ 129	▲ 137	▲ 150	▲ 169	▲ 186	▲ 204	▲ 209	▲ 225

資料：長野県毎月人口異動調査

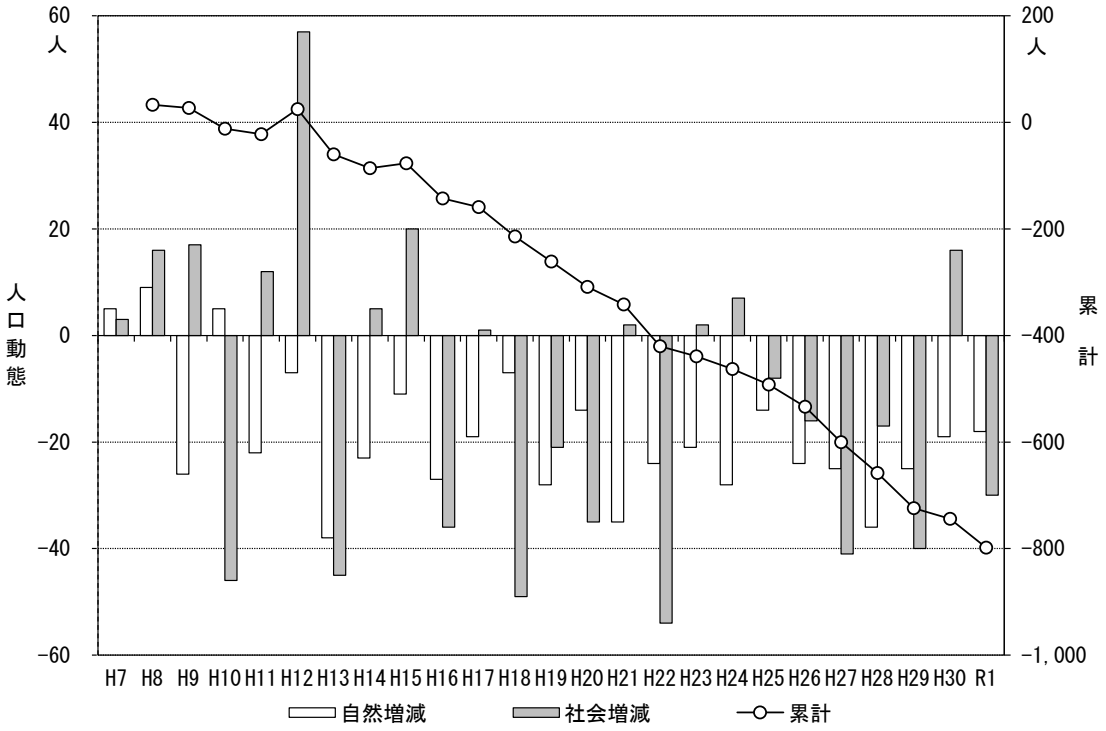


図 6　人口動態の推移（行政区域）

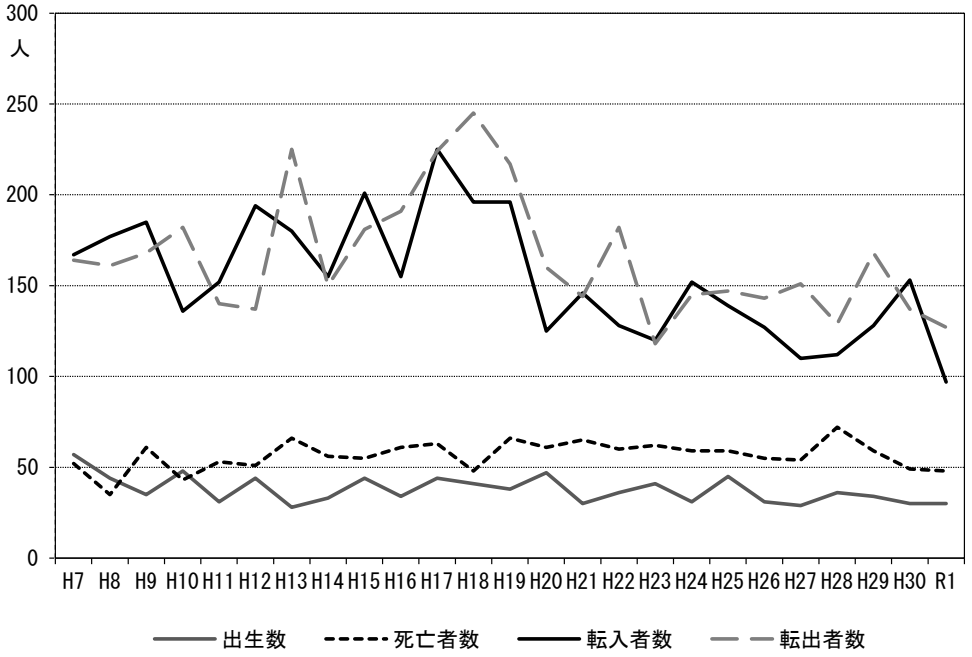


図 7　人口動態の推移内訳（行政区域）

C0105　通勤・通学移動

平成２年から平成 22 年までの就業・通学者数による流出・流入人口をみると、常住地・従業地の別に関わらず、就業者・通学者数は減少が続いている。平成 27 年の常住地による就業・通学者数は 2,977 人、従業地による就業・通学者数は 2,068 人となっており、平成７年と比較すると前者で 547 人、後者で 631 人減少している。

平成 27 年における流出・流入率は、順に 53.3%、32.6%と流出が流入を上回っている。

また、平成７年と平成 27 年の流出先・流入先を市町村別に比較すると、順位に変動はあるものの移動する市町村に変化は見られず、流出先は駒ヶ根市が、流入先は松川町が最も多い。

表 5　流出・流入別人口推移

	常住地による就業・通学者数（人）	流出		従業・就学地による就業・通学者数（人）	流入		従／常 就業・通学者比率(%)
		就業・通学者数（人）	流出率(%)		就業・通学者数（人）	流入率(%)	
平成７年	3,524	1,394	39.6	2,699	569	21.1	76.6
平成12年	3,443	1,625	47.2	2,387	569	23.8	69.3
平成17年	3,269	1,650	50.5	2,221	602	27.1	67.9
平成22年	3,120	1,661	53.2	2,161	698	32.3	69.3
平成27年	2,977	1,587	53.3	2,068	674	32.6	69.5

表 6　市町村別流出・流入先人口推移

	流出先								
	流出率第１位			流出率第２位			流出率第３位		
	市町村名	流出者数(人)	流出率(%)	市町村名	流出者数(人)	流出率(%)	市町村名	流出者数(人)	流出率(%)
平成７年	駒ヶ根市	364	10.3	飯島町	264	7.5	飯田市	262	7.4
平成12年	駒ヶ根市	372	10.8	飯島町	317	9.2	飯田市	304	8.8
平成17年	駒ヶ根市	373	11.4	飯田市	310	9.5	飯島町	305	9.3
平成22年	駒ヶ根市	415	13.3	飯田市	319	10.2	飯島町	278	8.9
平成27年	駒ヶ根市	348	11.7	飯田市	310	10.4	松川町	272	9.1

	流出先					
	流出率第４位			流出率第５位		
	市町村名	流出者数(人)	流出率(%)	市町村名	流出者数(人)	流出率(%)
平成７年	松川町	234	6.6	伊那市	94	2.7
平成12年	松川町	295	8.6	伊那市	112	3.3
平成17年	松川町	237	7.2	伊那市	149	4.6
平成22年	松川町	249	8.0	伊那市	134	4.3
平成27年	飯島町	259	8.7	伊那市	121	4.1

	流入先								
	流入率第１位			流入率第２位			流入率第３位		
	市町村名	流入者数(人)	流入率(%)	市町村名	流入者数(人)	流入率(%)	市町村名	流入者数(人)	流入率(%)
平成７年	松川町	198	7.3	飯島町	133	4.9	飯田市	65	2.4
平成12年	松川町	172	7.2	飯島町	150	6.3	駒ヶ根市	88	3.7
平成17年	松川町	195	8.8	飯島町	149	6.7	駒ヶ根市	99	4.5
平成22年	飯島町	189	8.7	松川町	186	8.6	駒ヶ根市	114	5.3
平成27年	松川町	191	9.2	飯島町	182	8.8	駒ヶ根市	117	5.7

	流入先					
	流入率第４位			流入率第５位		
	市町村名	流入者数(人)	流入率(%)	市町村名	流入者数(人)	流入率(%)
平成７年	駒ヶ根市	62	2.3	高森町	49	1.8
平成12年	飯田市	54	2.3	高森町	39	1.6
平成17年	飯田市	47	2.1	高森町	30	1.4
平成22年	飯田市	56	2.6	高森町	40	1.9
平成27年	飯田市	64	3.1	高森町	38	1.8

資料：国勢調査

注１）常住地による就業・通学者数とは当該都市に常住する（夜間人口ベース）就業・通学者数をいう
　　従業・通学地による就業・通学者数とは当該都市に従業・通学する（昼間人口ベース）就業・通学者数をいう

注２）流出率＝流出就業・通学者数／常住地による就業・通学者数×100
　　流入率＝流入就業・通学者数／従業・通学地による就業・通学者数×100

注３）（従／常）就業・通学者比率＝従業・通学地による就業・通学者数／常住地による就業・通学者数×100

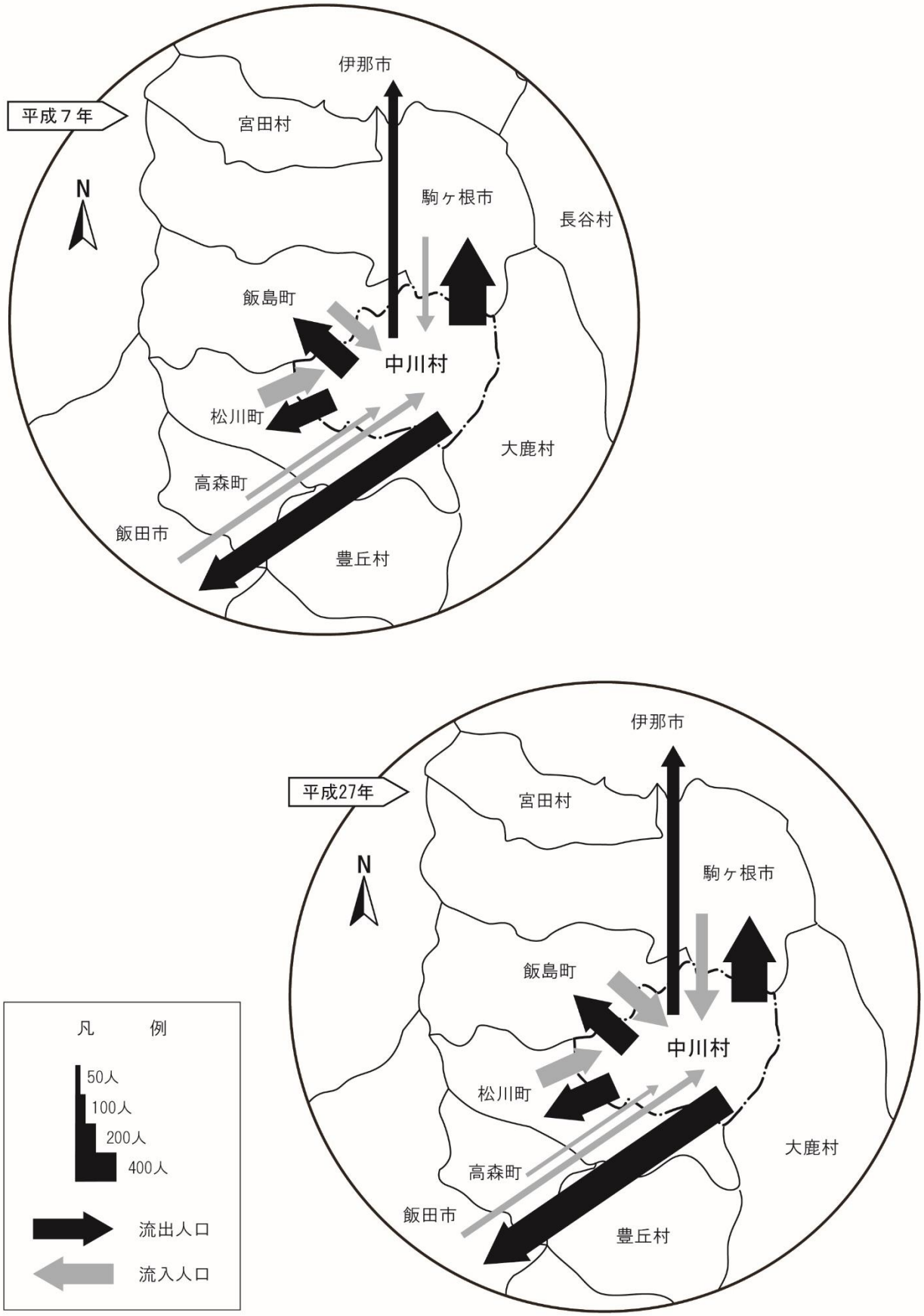

平成７年
伊那市
宮田村
駒ヶ根市
長谷村
N
飯島町
中川村
松川町
大鹿村
高森町
飯田市
豊丘村
平成27年
伊那市
宮田村
駒ヶ根市
N
飯島町
中川村
松川町
大鹿村
高森町
飯田市
豊丘村
凡　　例
50人
100人
200人
400人
流出人口
流入人口

図 8　流出・流入人口

② 産　業

C0201　産業・職業大分類別就業者数

C0201-1　産業大分類別就業者数

平成 27 年における常住地による産業大分類別就業者数は、製造業が 23.3%と最も多く、次いで農業、林業が 22.3%、医療、福祉が 12.3%となっている。

平成７年から平成 27 年までの就業者数の推移は、常住地・従業地ともに減少が続いており、産業３区分別にみると、第１次産業人口と第２次産業人口は減少、第３次産業人口は増加している。

また、常住地による産業大分類別就業者数において、平成 12 年までは第２次産業人口が、平成 17 年以降は第３次産業人口が最も多くなっている。一方、従業地による産業大分類別就業者数においては、平成 17 年までは第１次産業人口が、平成 22 年以降は第３次産業人口が最も多くなっている。

表 7　産業大分類別就業者数推移

産業大分類	平成７年				平成１２年			
	常住地による		従業地による		常住地による		従業地による	
	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %
A．農業	1,026	31.6	1,018	38.5	824	26.0	843	36.0
B．林業、狩猟業	2	0.1	3	0.1	3	0.1	9	0.4
C．漁業、水産養殖業	1	0.03	1	0.04	－	－	－	－
第１次産業合計	1,029	31.7	1,022	38.6	827	26.1	852	36.4
D．鉱業	5	0.2	20	0.8	6	0.2	20	0.9
E．建設業	363	11.2	309	11.7	417	13.2	342	14.6
F．製造業	854	26.3	649	24.5	792	25.0	459	19.6
第２次産業合計	1,222	37.6	978	37.0	1,215	38.4	821	35.1
G．卸売業・小売業	283	8.7	146	5.5	343	10.8	157	6.7
H．金融・保険業	30	0.9	9	0.3	30	0.9	10	0.4
I．不動産業	5	0.2	4	0.2	5	0.2	2	0.1
J．運輸・通信業	86	2.6	45	1.7	92	2.9	38	1.6
K．電気・ガス・水道業	19	0.6	8	0.3	18	0.6	7	0.3
L．サービス業	484	14.9	350	13.2	550	17.4	357	15.2
M．公務	88	2.7	83	3.1	87	2.7	97	4.1
第３次産業合計	995	30.7	645	24.4	1,125	35.5	668	28.5
N．分類不能の産業	－	－	1	0.04	－	－	－	－
合　　計	3,246	100.0	2,646	100.0	3,167	100.0	2,341	100.0

産業大分類	平成１７年			
	常住地による		従業地による	
	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %
A．農業	793	26.3	816	37.6
B．林業、狩猟業	4	0.1	3	0.1
C．漁業、水産養殖業	－	－	1	0.05
第１次産業合計	797	26.4	820	37.8
D．鉱業	1	0.03	10	0.5
E．建設業	335	11.1	274	12.6
F．製造業	668	22.2	365	16.8
第２次産業合計	1,004	33.3	649	29.9
G．卸売業・小売業	317	10.5	143	6.6
H．金融・保険業	29	1.0	10	0.5
I．不動産業	6	0.2	2	0.1
J．運輸・通信業	79	2.6	25	1.2
K．電気・ガス・水道業	16	0.5	5	0.2
L．サービス業	679	22.5	435	20.0
M．公務	84	2.8	79	3.6
第３次産業合計	1,210	40.1	699	32.2
N．分類不能の産業	3	0.1	3	0.1
合　　計	3,014	100.0	2,171	100.0

産業大分類	平成２２年				平成２７年			
	常住地による		従業地による		常住地による		従業地による	
	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %
A．農業、林業	693	24.2	732	34.5	628	22.3	681	33.4
B．漁業	－	－	－	－	－	－	－	－
第１次産業合計	693	24.2	732	34.5	628	22.3	681	33.4
C．鉱業、採石業、砂利採取業	4	0.1	12	0.6	3	0.1	7	0.3
D．建設業	291	10.2	278	13.1	254	9.0	217	10.6
E．製造業	652	22.8	363	17.1	657	23.3	355	17.4
第２次産業合計	947	33.1	653	30.8	914	32.5	579	28.4
F．電気・ガス・熱供給・水道業	18	0.6	7	0.3	19	0.7	8	0.4
G．情報通信業	10	0.3	3	0.1	6	0.2	4	0.2
H．運輸業、郵便業	76	2.7	17	0.8	63	2.2	25	1.2
I．卸売業、小売業	295	10.3	156	7.4	291	10.3	138	6.8
J．金融業、保険業	30	1.0	9	0.4	25	0.9	11	0.5
K．不動産業、物品賃貸業	10	0.3	4	0.2	6	0.2	8	0.4
L．学術研究、専門・技術サービス業	44	1.5	16	0.8	47	1.7	19	0.9
M．宿泊業、飲食サービス業	130	4.5	83	3.9	122	4.3	74	3.6
N．生活関連サービス業、娯楽業	52	1.8	19	0.9	60	2.1	26	1.3
O．教育、学習支援業	72	2.5	73	3.4	80	2.8	72	3.5
P．医療、福祉	292	10.2	188	8.9	345	12.3	219	10.7
Q．複合サービス事業	40	1.4	39	1.8	51	1.8	40	2.0
R．サービス業（他に分類されないもの）	69	2.4	39	1.8	69	2.5	45	2.2
S．公務（他に分類されるものを除く）	80	2.8	81	3.8	89	3.2	87	4.3
第３次産業合計	1,218	42.6	734	34.6	1,273	45.2	776	38.0
T．分類不能の産業	－	－	1	0.05	1	0.04	4	0.2
合　　計	2,858	100.0	2,120	100.0	2,816	100.0	2,040	100.0

資料：国勢調査

注）「－」は該当数値なし

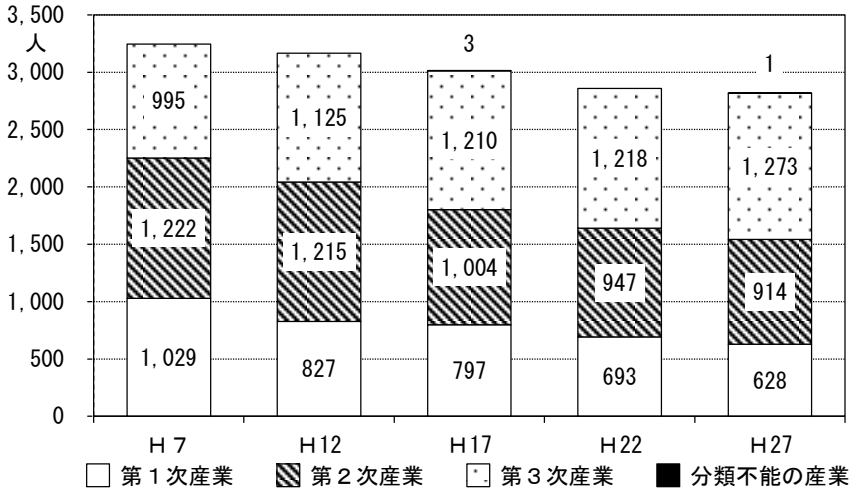


図 9　常住地による産業３区分別就業者数の推移

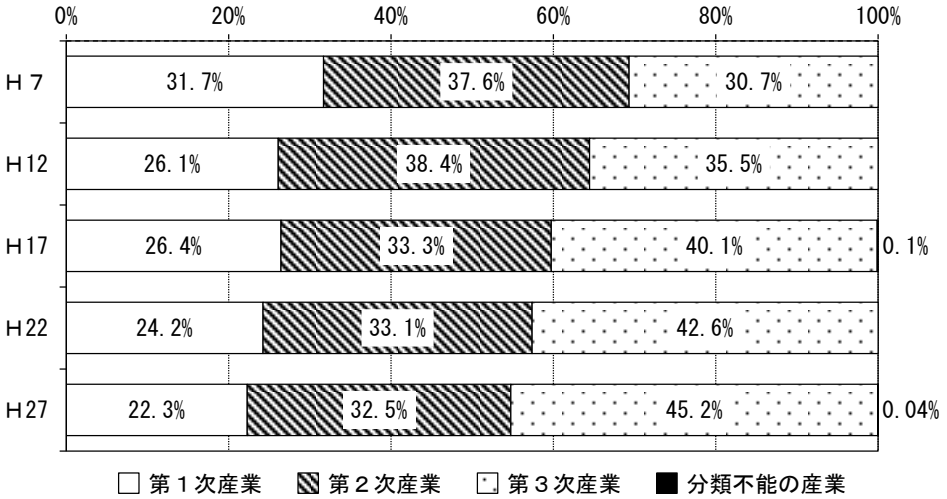


図 10　常住地による産業３区分別就業者数構成比の推移

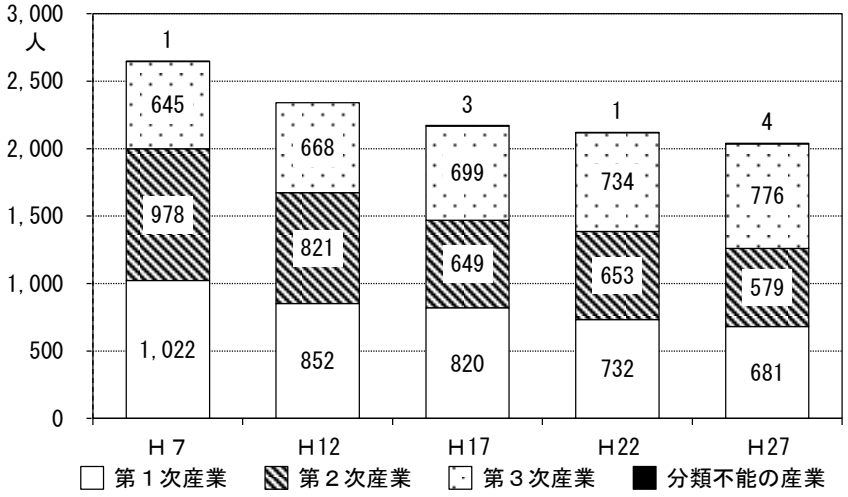


図 11　従業地による産業３区分別就業者数の推移

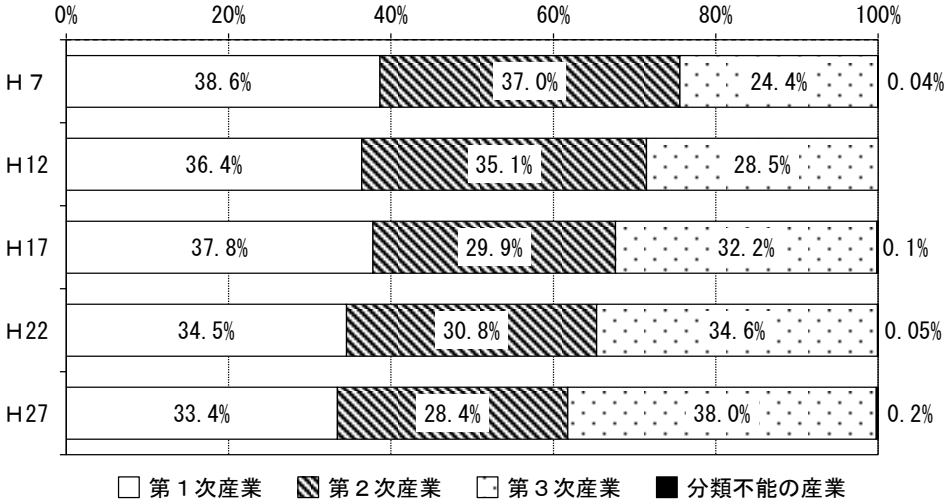


図 12　従業地による産業３区分別就業者数構成比の推移

産業３区分別就業者数推計

常住地による産業３区分別就業者数の推計によると、推計方式により数値に幅はあるが、第１次産業及び第２次産業就業者数は減少傾向、第３次就業者数は増加傾向にあることが推測される。

２次式によると、令和 17 年には平成 27 年と比較して第１次産業就業者数は 419 人減（66.7%減）、第２次産業就業者数は 394 人減（43.1%減）、第３次産業就業者数は 318 人増（25.0%増）という結果であった。

産業３区分別構成比をみると、平成 27 年の実績値では第１次産業就業者数は 22.3%、第２次産業就業者数は 32.5%、第３次産業就業者数は 45.2%であるが、２次式による令和 17 年の推計値は、順に 9.0%、22.4%、68.6%となることが推測される。

表 8　常住地による産業３区分別就業者数の将来推計

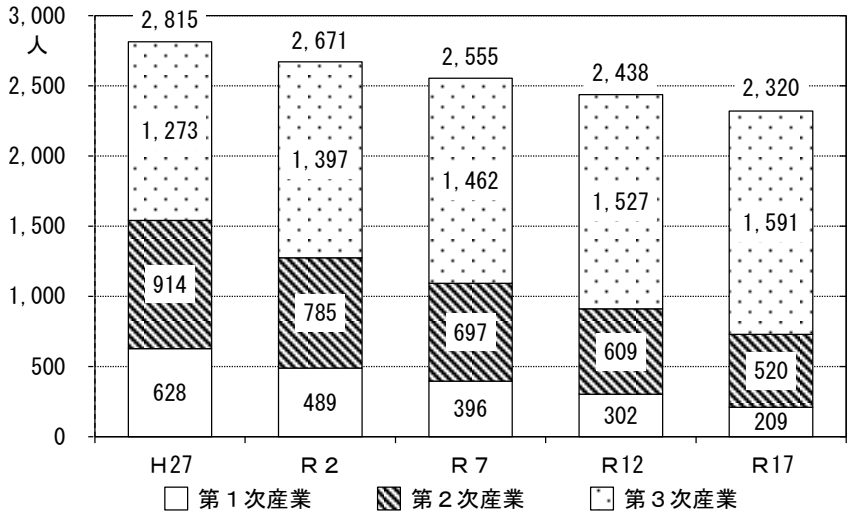
単位：人

第１次産業人口		H７	H12	H17	H22	H27（基準年次）	R２	R７（10年後）	R12	R17（20年後）
実績値		1,029	827	797	693	628				
推計値	等差式						528	428	328	228
	等比式						555	490	433	383
	１次式						524	434	344	254
	２次式						489	396	302	209
	指数式						552	491	437	389

第２次産業人口		H７	H12	H17	H22	H27（基準年次）	R２	R７（10年後）	R12	R17（20年後）
実績値		1,222	1,215	1,004	947	914				
推計値	等差式						837	760	683	606
	等比式						850	790	735	683
	１次式						805	720	635	550
	２次式						785	697	609	520
	指数式						820	754	694	639

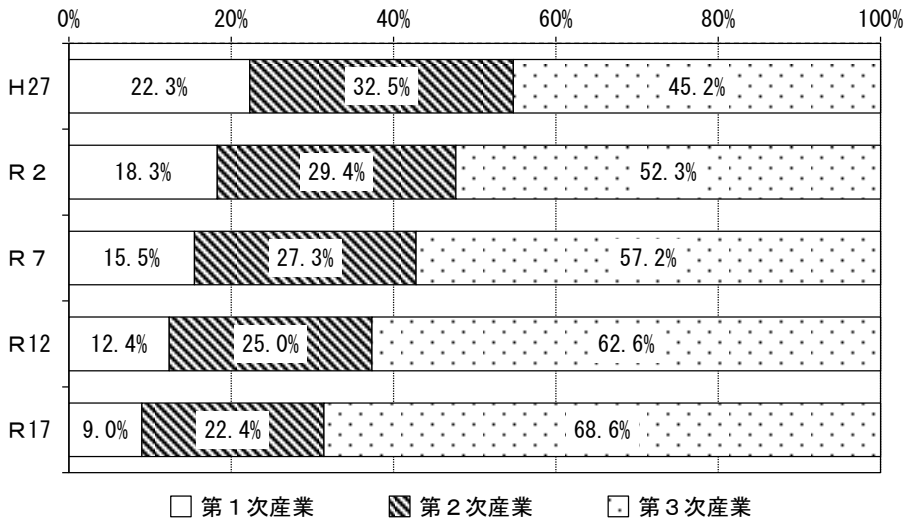
第３次産業人口		H７	H12	H17	H22	H27（基準年次）	R２	R７（10年後）	R12	R17（20年後）
実績値		995	1,125	1,210	1,218	1,273				
推計値	等差式						1,342	1,412	1,481	1,551
	等比式						1,353	1,439	1,531	1,628
	１次式						1,344	1,404	1,464	1,524
	２次式						1,397	1,462	1,527	1,591
	指数式						1,375	1,456	1,542	1,633

資料：国勢調査



注）分類不能を除く

図 13　常住地による産業３区分別就業者数の将来推計（２次式による）



注）分類不能を除く

図 14　常住地による産業３区分別就業者数の将来推計構成比（２次式による）

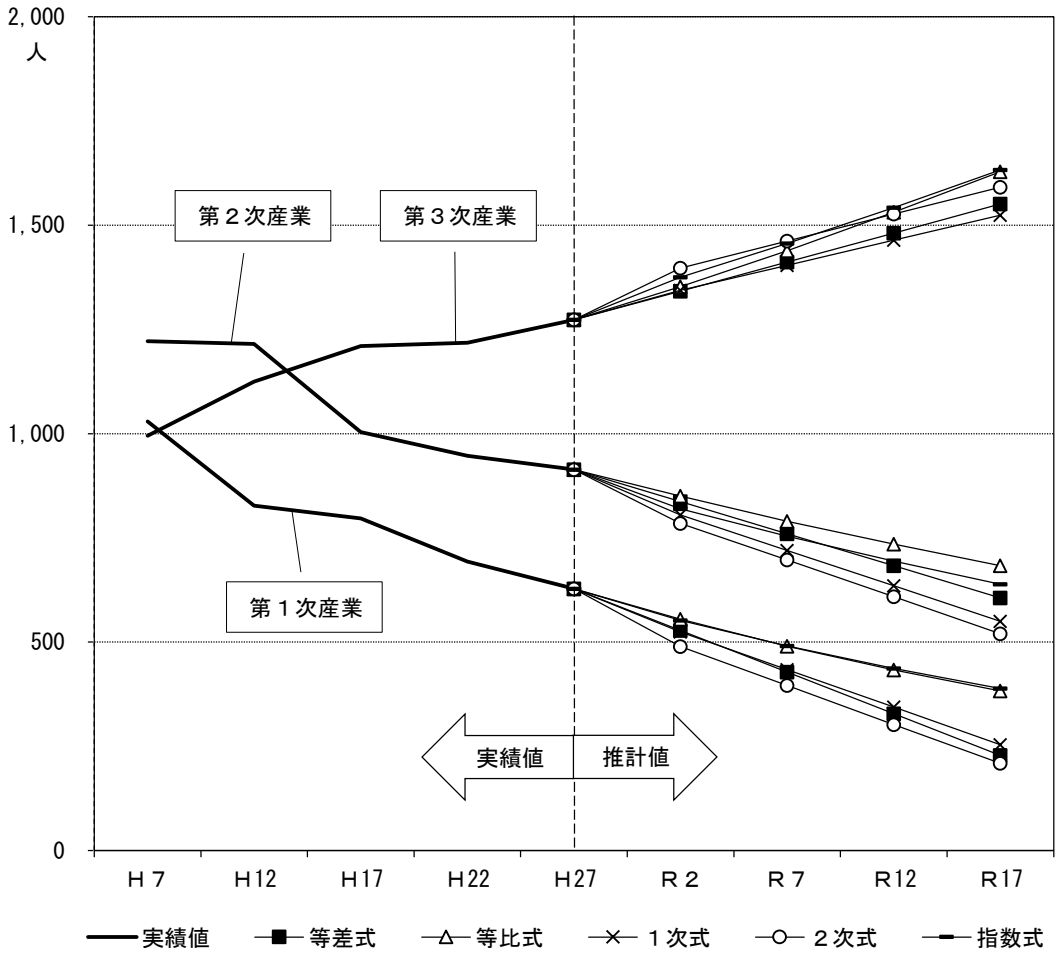


図 15　常住地による産業３区分別就業者数の将来推計

C0201-2　職業大分類別就業者数

平成 27 年の職業大分類別就業者数をみると、常住地による就業者数は 2,816 人であり、平成 7 年と比較すると 430 人減少している。平成 7 年から平成 27 年まで、常住地・従業地ともに、農林漁業従事者及び生産工程従事者が多くを占めているものの割合は減少傾向にあり、専門的・技術的職業従事者や事務従事者、サービス職業従事者などへの分散が見られる。

表 9　職業大分類別就業者数の推移

職業大分類	平成７年				平成１２年			
	常住地による		従業地による		常住地による		従業地による	
	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %
A 専門的・ 技術的職業従事者	221	6.8	161	6.1	248	7.8	170	7.3
B 管理的職業従事者	59	1.8	67	2.5	53	1.7	53	2.3
C 事務従事者	369	11.4	256	9.7	410	12.9	273	11.7
D 販売従事者	201	6.2	113	4.3	222	7.0	109	4.7
E サービス職業従事者	136	4.2	100	3.8	187	5.9	114	4.9
F 保安職業従事者	26	0.8	15	0.6	23	0.7	16	0.7
G 農林漁業作業者	987	30.4	994	37.6	792	25.0	828	35.4
H 運輸・通信従事者	64	2.0	49	1.9	71	2.2	44	1.9
I 生産工程・労務作業者	1,183	36.4	891	33.7	1,161	36.7	734	31.4
J 分類不能の職業	－	－	－	－	－	－	－	－
合　　計	3,246	100.0	2,646	100.0	3,167	100.0	2,341	100.0

職業大分類	平成１７年			
	常住地による		従業地による	
	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %
A 専門的・ 技術的職業従事者	252	8.4	167	7.7
B 管理的職業従事者	47	1.6	49	2.3
C 事務従事者	385	12.8	246	11.3
D 販売従事者	232	7.7	110	5.1
E サービス職業従事者	230	7.6	133	6.1
F 保安職業従事者	23	0.8	4	0.2
G 農林漁業作業者	724	24.0	760	35.0
H 運輸・通信従事者	76	2.5	36	1.7
I 生産工程・労務作業者	1,042	34.6	663	30.5
J 分類不能の職業	3	0.1	3	0.1
合　　計	3,014	100.0	2,171	100.0

職業大分類	平成２２年				平成２７年			
	常住地による		従業地による		常住地による		従業地による	
	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %	就業者数 人	構成比 %
A 管理的職業従事者	67	2.3	65	3.1	117	4.2	99	4.9
B 専門的・技術的職業従事者	273	9.6	186	8.8	288	10.2	201	9.9
C 事務従事者	323	11.3	222	10.5	427	15.2	268	13.1
D 販売従事者	225	7.9	108	5.1	167	5.9	81	4.0
E サービス職業従事者	276	9.7	182	8.6	298	10.6	200	9.8
F 保安職業従事者	26	0.9	9	0.4	29	1.0	8	0.4
G 農林漁業従事者	629	22.0	672	31.7	566	20.1	618	30.3
H 生産工程従事者	602	21.1	328	15.5	562	20.0	300	14.7
I 輸送・機械運転従事者	74	2.6	43	2.0	75	2.7	43	2.1
J 建設・採掘従事者	181	6.3	186	8.8	138	4.9	126	6.2
K 運搬・清掃・包装等従事者	182	6.4	119	5.6	147	5.2	92	4.5
L 分類不能の職業	－	－	－	－	2	0.1	4	0.2
合　　計	2,858	100.0	2,120	100.0	2,816	100.0	2,040	100.0

資料：国勢調査

注１）「－」は該当数値なし

注２）平成 22 年以降の職業大分類の項目名・定義は、平成 21 年の日本標準職業分類の改訂後のものを適用しているため、平成 17 年以前のものと合致しない

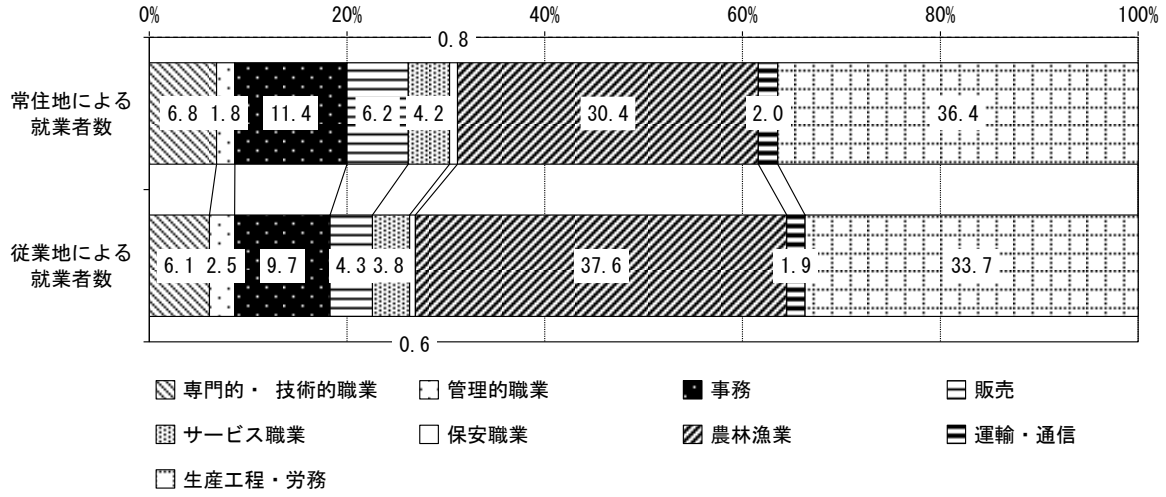


図 16　職業大分類別就業者数構成比（平成７年）

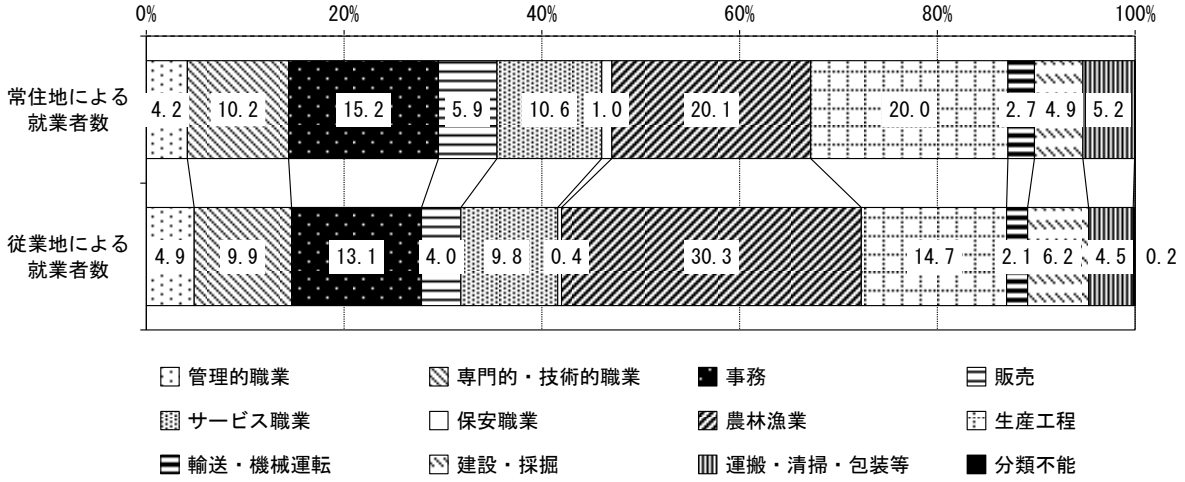


図 17　職業大分類別就業者数構成比（平成 27 年）

C0202　事業所数・従業者数・売上金額

C0202-1　事業所数・従業者数・売上金額

平成 28 年における事業所数は 186 事業所であり、そのうち製造業及び卸売業，小売業がともに 34 事業所（18.3%）と最も多く、次いで建設業が 32 事業所（17.2%）となっている。従業者数については製造業が 334 人(25.2%)と最も多くを占めており、次いで医療，福祉が 214 人(16.2%)、建設業が 201 人（15.2%）の順に多くなっている。

平成８年から平成 26 年までの事業所数と従業者数の推移をみると、事業所数は横ばい傾向にあり、従業者数は微減傾向にある。

表 10　産業大分類別事業所数・従業者数推移及び売上金額

産業大分類	平成８年		平成１１年		平成１３年	
	事業所数	従業者数（人）	事業所数	従業者数（人）	事業所数	従業者数（人）
A．B．C．農林漁業	5	93	8	118	9	160
D．鉱業	1	36	1	33	1	31
E．建設業	42	324	41	297	47	333
F．製造業	40	633	38	494	37	416
G．電気・ガス・熱供給・水道業	2	8	－	－	2	9
H．運輸・通信業	8	37	7	17	7	51
I．卸売・小売業，飲食店	61	199	55	183	57	208
J．金融・保険業	1	8	1	8	1	8
K．不動産業	－	－	－	－	1	7
L．サービス業	59	303	44	174	59	329
M．公務（他に分類されないもの）	7	93			7	84
合　　計	226	1,734	195	1,324	228	1,636

産業大分類	平成１６年		平成１８年	
	事業所数	従業者数（人）	事業所数	従業者数（人）
A．B．C．農林漁業	9	183	11	224
D．鉱業	2	19	2	12
E．建設業	50	316	48	259
F．製造業	34	325	32	333
G．電気・ガス・熱供給・水道業	－	－	1	6
H．情報通信業	2	8	1	1
I．運輸業	2	8	2	11
J．卸売・小売業	37	195	40	159
K．金融・保険業	1	8	1	8
L．不動産業	－	－	－	－
M．飲食店，宿泊業	15	67	16	83
N．医療，福祉	7	78	20	164
O．教育，学習支援業	－	－	6	62
P．複合サービス事業	3	29	5	47
Q．サービス業（他に分類されないもの）	32	68	29	70
R．公務（他に分類されないもの）			6	91
合　　計	194	1,304	220	1,530

産業大分類	平成２１年		平成２４年		
	事業所数	従業者数（人）	事業所数	従業者数（人）	売上金額（百万円）
A．B．農林漁業	8	155	9	168	1,070
C．鉱業，採石業，砂利採取業	2	14	2	13	x
D．建設業	46	241	38	226	…
E．製造業	33	350	35	312	3,162
F．電気・ガス・熱供給・水道業	2	4	1	2	…
G．情報通信業	-	-	-	-	…
H．運輸業，郵便業	3	12	3	11	…
I．卸売業，小売業	43	185	34	197	1,883
J．金融業，保険業	1	8	1	8	…
K．不動産業，物品賃貸業	1	1	2	4	x
L．学術研究，専門・技術サービス業	8	18	8	12	42
M．宿泊業，飲食サービス業	19	102	17	102	356
N．生活関連サービス業，娯楽業	11	18	12	17	55
O．教育，学習支援業	7	58	1	1	…
P．医療，福祉	20	194	12	149	574
Q．複合サービス事業	4	33	4	51	…
R．サービス業（他に分類されないもの）	9	18	9	17	…
S．公務（他に分類されるものを除く）	6	91			
合　　計	223	1,502	188	1,290	…

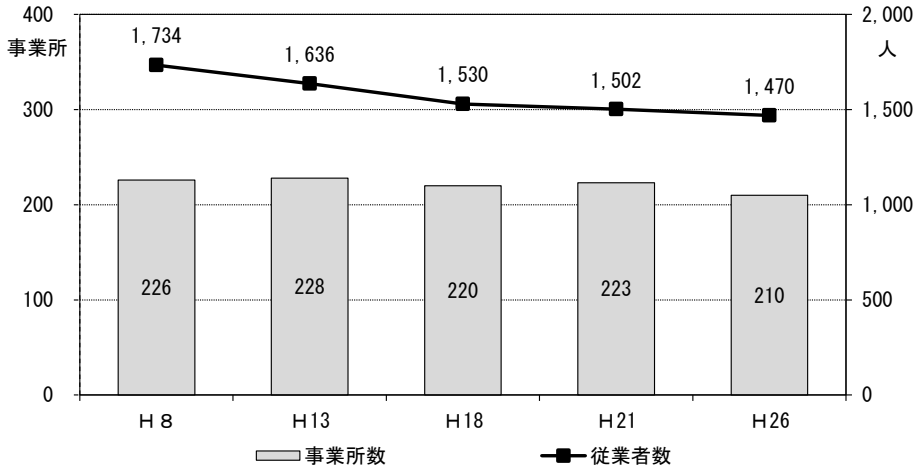
産業大分類	平成２６年			平成２８年		
	事業所数	従業者数（人）	売上金額（百万円）	事業所数	従業者数（人）	売上金額（百万円）
A．B．農林漁業	11	176	941	11	187	1,204
C．鉱業，採石業，砂利採取業	2	12	x	2	13	x
D．建設業	35	198	…	32	201	…
E．製造業	34	289	3,805	34	334	3,690
F．電気・ガス・熱供給・水道業	2	11	…	1	3	…
G．情報通信業	1	1	…	1	1	…
H．運輸業，郵便業	3	25	…	3	9	…
I．卸売業，小売業	35	163	2,320	34	138	2,460
J．金融業，保険業	1	8	…	2	8	…
K．不動産業，物品賃貸業	3	11	231	3	8	292
L．学術研究，専門・技術サービス業	8	11	44	6	8	30
M．宿泊業，飲食サービス業	18	90	291	18	99	365
N．生活関連サービス業，娯楽業	12	16	49	11	15	49
O．教育，学習支援業	7	66	…	2	9	…
P．医療，福祉	19	247	706	14	214	693
Q．複合サービス事業	4	51	…	4	52	…
R．サービス業（他に分類されないもの）	9	17	…	8	24	…
S．公務（他に分類されるものを除く）	6	78				
合　　計	210	1,470	…	186	1,323	…

資料：事業所・企業統計調査、経済センサス

注１）平成 11 年、16 年、24 年、28 年の事業所数は民営の事業所のみ

注２）「-」は該当数値なし、「x」は統計法により公表を控えたもの

注３）売上金額は、外国の会社及び法人でない団体を除き、事業所単位の把握ができない一部の産業については「…」で表す



注）民営の事業所のみの年を除く

図 18　事業所数・従業者数推移

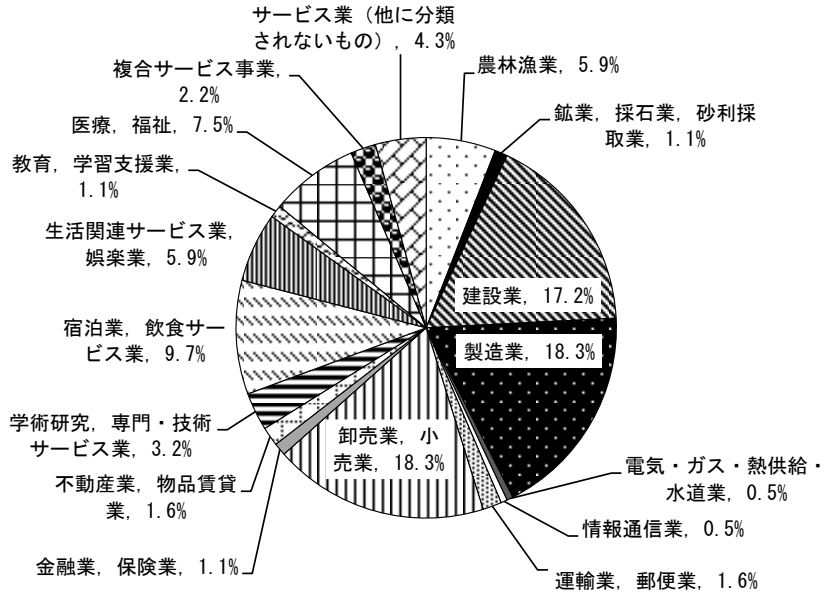


図 19　産業大分類別事業所数構成比（平成 28 年）

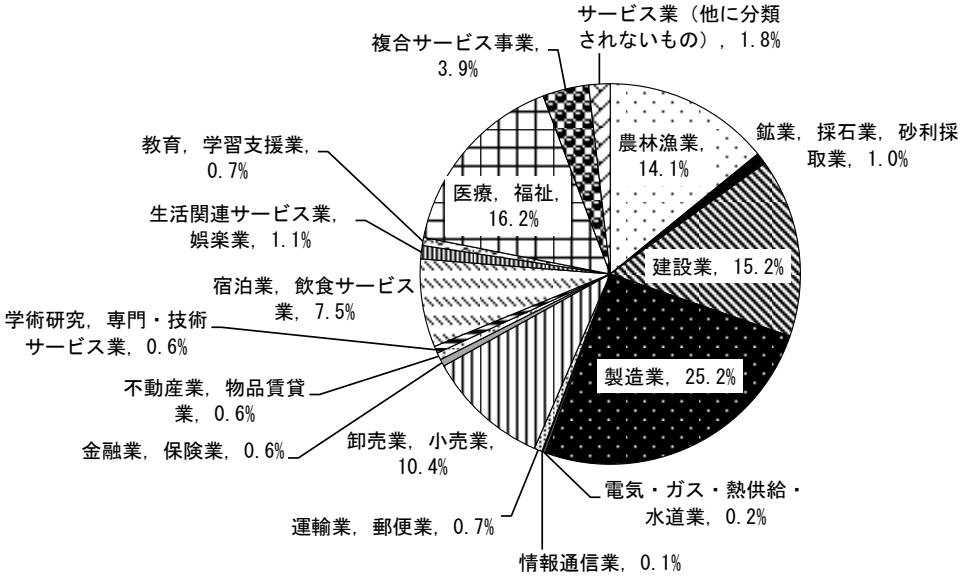


図 20　産業大分類別従業者数構成比（平成 28 年）

C0202-2　産業中分類別工業出荷額

平成２年から令和元年までのデフレータ補正値での工業出荷額推移をみると、平成３年の約 109 億円が最も高く、その後は減少傾向が続き、平成 23 には約 30 億円と最も低くなっている。それ以降は微増に転じ、令和元年には約 36 億円となっている。

表 11　工業出荷額推移

単位:100万円

	工業出荷額	デフレータ補正値		工業出荷額	デフレータ補正値
平成２年	11, 260	10, 724	平成17年	4, 507	4, 744
平成３年	11, 526	10, 874	平成18年	4, 775	4, 923
平成４年	10, 217	9, 730	平成19年	4, 701	4, 797
平成５年	10, 496	10, 190	平成20年	4, 020	3, 903
平成６年	8, 036	7, 878	平成21年	3, 434	3, 504
平成７年	7, 128	7, 057	平成22年	3, 679	3, 793
平成８年	7, 398	7, 473	平成23年	2, 963	2, 993
平成９年	8, 241	8, 241	平成24年	3, 324	3, 392
平成10年	7, 622	7, 778	平成25年	3, 405	3, 439
平成11年	6, 491	6, 692	平成26年	3, 418	3, 351
平成12年	6, 882	7, 095	平成27年	3, 500	3, 500
平成13年	6, 110	6, 432	平成28年	3, 470	3, 577
平成14年	5, 987	6, 438	平成29年	3, 681	3, 718
平成15年	4, 006	4, 354	平成30年	3, 681	3, 645
平成16年	4, 217	4, 534	令和元年	3, 706	3, 633

資料：工業統計調査

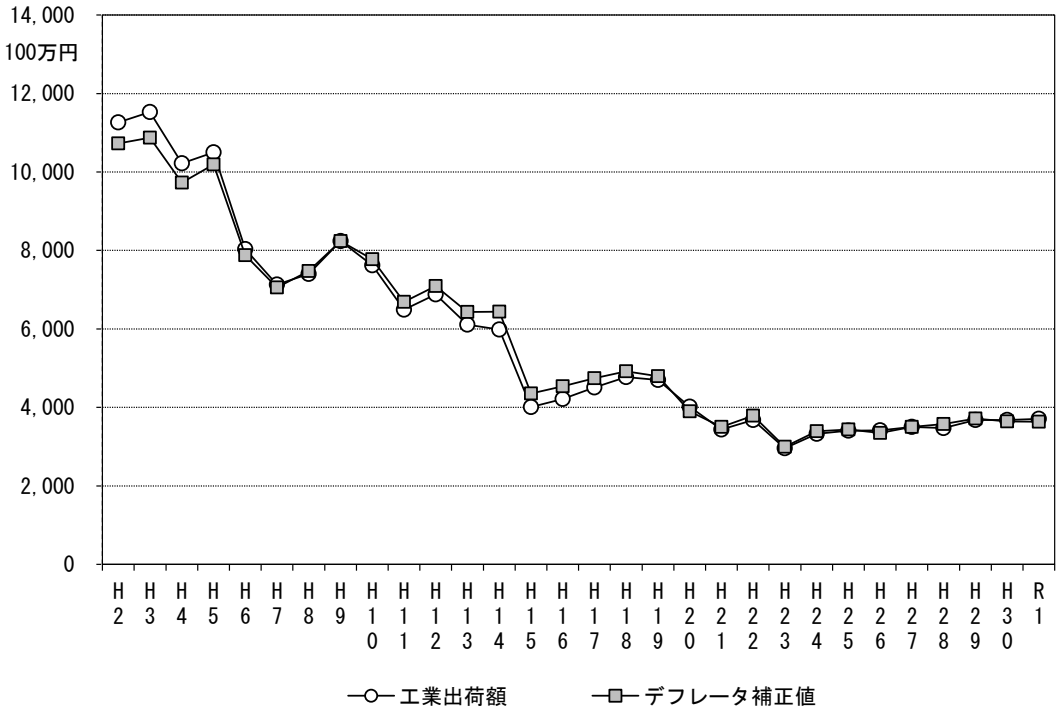


図 21　工業出荷額推移

表 12　産業中分類別工業出荷額

単位:100万円

産業中分類	平成２年		平成３年		平成４年		平成５年	
	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合　　計	11, 260	10, 724	11, 526	10, 874	10, 217	9, 730	10, 496	10, 190
12 食料品（製造業）	775	738	830	783	844	804	884	858
13 飲料・たばこ・飼料	x	x	x	x	x	x	x	x
14 繊維工業	－	－	－	－	－	－	－	－
15 衣服・その他の繊維製品	x	x	x	x	x	x	x	x
16 木材・木製品	x	x	x	x	－	－	－	－
17 家具・装備品	x	x	x	x	x	x	13	13
18 パルプ・紙・紙加工品	－	－	－	－	－	－	－	－
19 出版・印刷・同関連	x	x	x	x	x	x	x	x
20 化学工業	－	－	－	－	－	－	－	－
21 石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－	－	－
22 プラスチック製品	x	x	x	x	x	x	x	x
23 ゴム製品	－	－	－	－	－	－	－	－
24 なめし革・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－	－	－
25 窯業・土石製品	x	x	x	x	x	x	x	x
26 鉄鋼業	x	x	－	－	－	－	－	－
27 非鉄金属	－	－	－	－	－	－	－	－
28 金属製品	x	x	1, 760	1, 660	x	x	x	x
29 一般機械器具	x	x	x	x	x	x	x	x
30 電気機械器具	2, 343	2, 231	3, 052	2, 879	2, 387	2, 273	2, 404	2, 334
31 輸送用機械器具	3, 651	3, 477	3, 531	3, 331	3, 434	3, 270	x	x
32 精密機械器具	x	x	1, 537	1, 450	x	x	x	x
33 武器	－	－	－	－	－	－	－	－
34 その他の製造業	11	10	13	12	x	x	7	7

産業中分類	平成６年		平成７年		平成８年		平成９年	
	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合　　計	8, 036	7, 878	7, 128	7, 057	7, 398	7, 473	8, 241	8, 241
12 食料品（製造業）	861	844	823	815	845	854	844	844
13 飲料・たばこ・飼料	x	x	x	x	x	x	x	x
14 繊維工業	－	－	－	－	－	－	－	－
15 衣服・その他の繊維製品	241	236	265	262	231	233	249	249
16 木材・木製品	－	－	－	－	x	x	－	－
17 家具・装備品	x	x	x	x	x	x	x	x
18 パルプ・紙・紙加工品	－	－	－	－	－	－	－	－
19 出版・印刷・同関連	x	x	x	x	x	x	x	x
20 化学工業	－	－	－	－	－	－	－	－
21 石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－	－	－
22 プラスチック製品	x	x	x	x	346	349	x	x
23 ゴム製品	－	－	－	－	－	－	－	－
24 なめし革・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－	－	－
25 窯業・土石製品	x	x	x	x	x	x	x	x
26 鉄鋼業	－	－	－	－	－	－	x	x
27 非鉄金属	－	－	－	－	－	－	－	－
28 金属製品	x	x	x	x	x	x	x	x
29 一般機械器具	x	x	69	68	52	53	56	56
30 電気機械器具	2, 011	1, 972	1, 941	1, 922	1, 870	1, 889	1, 716	1, 716
31 輸送用機械器具	x	x	x	x	x	x	x	x
32 精密機械器具	x	x	x	x	x	x	x	x
33 武器	－	－	－	－	－	－	－	－
34 その他の製造業	x	x	x	x	x	x	x	x

単位:100万円

産業中分類	平成１０年		平成１１年		平成１２年		平成１３年	
	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合　　計	7, 622	7, 778	6, 491	6, 692	6, 882	7, 095	6, 110	6, 432
12 食料品（製造業）	909	928	774	798	674	695	x	x
13 飲料・たばこ・飼料	x	x	x	x	x	x	x	x
14 繊維工業	−	−	−	−	−	−	−	−
15 衣服・その他の繊維製品	250	255	x	x	x	x	x	x
16 木材・木製品	−	−	−	−	−	−	−	−
17 家具・装備品	x	x	−	−	x	x	−	−
18 パルプ・紙・紙加工品	−	−	−	−	−	−	−	−
19 出版・印刷・同関連	x	x	x	x	x	x	x	x
20 化学工業	−	−	−	−	−	−	−	−
21 石油製品・石炭製品	−	−	−	−	−	−	−	−
22 プラスチック製品	x	x	x	x	x	x	x	x
23 ゴム製品	−	−	−	−	−	−	−	−
24 なめし革・同製品・毛皮	−	−	−	−	−	−	−	−
25 窯業・土石製品	x	x	x	x	x	x	x	x
26 鉄鋼業	−	−	−	−	−	−	−	−
27 非鉄金属	−	−	−	−	−	−	−	−
28 金属製品	x	x	x	x	1, 152	1, 188	x	x
29 一般機械器具	202	206	162	167	230	237	x	x
30 電気機械器具	1, 401	1, 430	1, 217	1, 255	1, 548	1, 596	1, 298	1, 366
31 輸送用機械器具	x	x	2, 512	2, 590	2, 444	2, 520	x	x
32 精密機械器具	x	x	x	x	x	x	−	−
33 武器	−	−	−	−	−	−	−	−
34 その他の製造業	x	x	x	x	x	x	−	−

産業中分類	平成１４年		平成１５年		平成１６年	
	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合　　計	5, 987	6, 438	4, 006	4, 354	4, 217	4, 534
09　食料品（製造業）	x	x	x	x	x	x
10　飲料・たばこ・飼料	x	x	x	x	x	x
11　繊維工業	−	−	−	−	−	−
12　衣服・その他の繊維製品	x	x	x	x	x	x
13　木材・木製品	−	−	−	−	x	x
14　家具・装備品	−	−	−	−	−	−
15　パルプ・紙・紙加工品	−	−	−	−	−	−
16　印刷・同関連業	x	x	x	x	x	x
17　化学工業	−	−	−	−	−	−
18　石油製品・石炭製品	−	−	−	−	−	−
19　プラスチック製品	x	x	x	x	x	x
20　ゴム製品	−	−	−	−	−	−
21　なめし革・同製品・毛皮	−	−	−	−	−	−
22　窯業・土石製品	−	−	−	−	−	−
23　鉄鋼業	−	−	−	−	−	−
24　非鉄金属	−	−	−	−	−	−
25　金属製品	1, 514	1, 628	x	x	x	x
26　一般機械器具	x	x	x	x	x	x
27　電気機械器具	935	1, 005	652	709	605	651
28　情報通信機械器具	−	−	−	−	−	−
29　電子部品・デバイス	x	x	x	x	x	x
30　輸送用機械器具	x	x	x	x	x	x
31　精密機械器具	−	−	−	−	−	−
32　その他の製造業	−	−	−	−	−	−

単位:100万円

産業中分類	平成１７年		平成１８年		平成１９年	
	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合　計	4, 507	4, 744	4, 775	4, 923	4, 701	4, 797
09　食料品（製造業）	x	x	x	x	x	x
10　飲料・たばこ・飼料	x	x	x	x	x	x
11　繊維工業	－	－	－	－	－	－
12　衣服・その他の繊維製品	x	x	x	x	－	－
13　木材・木製品	x	x	x	x	x	x
14　家具・装備品	－	－	－	－	－	－
15　パルプ・紙・紙加工品	－	－	－	－	－	－
16　印刷・同関連業	x	x	x	x	x	x
17　化学工業	－	－	－	－	－	－
18　石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－
19　プラスチック製品	x	x	x	x	x	x
20　ゴム製品	－	－	－	－	－	－
21　なめし革・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－
22　窯業・土石製品	－	－	－	－	－	－
23　鉄鋼業	－	－	－	－	－	－
24　非鉄金属	－	－	－	－	－	－
25　金属製品	x	x	x	x	x	x
26　一般機械器具	－	－	－	－	－	－
27　電気機械器具	740	779	805	830	792	808
28　情報通信機械器具	－	－	－	－	－	－
29　電子部品・デバイス	x	x	x	x	－	－
30　輸送用機械器具	x	x	x	x	x	x
31　精密機械器具	－	－	－	－	－	－
32　その他の製造業	－	－	－	－	－	－

産業中分類	平成２０年		平成２１年		平成２２年		平成２３年	
	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合　計	4, 020	3, 903	3, 434	3, 504	3, 679	3, 793	2, 963	2, 993
09 食料品（製造業）	x	x	x	x	x	x	x	x
10 飲料・たばこ・飼料	x	x	x	x	x	x	x	x
11 繊維工業	x	x	x	x	x	x	x	x
12 木材・木製品	x	x	x	x	x	x	x	x
13 家具・装備品	－	－	－	－	－	－	－	－
14 パルプ・紙・紙加工品	－	－	－	－	－	－	－	－
15 印刷・同関連業	x	x	x	x	x	x	x	x
16 化学工業	－	－	－	－	－	－	－	－
17 石油製品・石炭製品	－	－	－	－	－	－	－	－
18 プラスチック製品	x	x	x	x	x	x	x	x
19 ゴム製品	－	－	－	－	－	－	－	－
20 なめし革・同製品・毛皮	－	－	－	－	－	－	－	－
21 窯業・土石製品	－	－	－	－	－	－	－	－
22 鉄鋼業	－	－	－	－	－	－	－	－
23 非鉄金属	－	－	－	－	－	－	－	－
24 金属製品	x	x	x	x	x	x	x	x
25 はん用機械器	－	－	－	－	－	－	－	－
26 生産用機械器具	－	－	－	－	－	－	－	－
27 業務用機械器具	－	－	－	－	－	－	－	－
28 電子部品・デバイス・電子回路	－	－	－	－	－	－	－	－
29 電気機械器具	308	299	286	292	299	308	x	x
30 情報通信機械器具	－	－	－	－	－	－	－	－
31 輸送用機械器具	x	x	x	x	x	x	x	x
32 その他の製造業	－	－	－	－	－	－	－	－

単位:100万円

産業中分類	平成２４年		平成２５年		平成２６年		平成２７年	
	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合計	3, 324	3, 392	3, 405	3, 439	3, 418	3, 351	3, 500	3, 500
09 食料品（製造業）	x	x	x	x	x	x	502	502
10 飲料・たばこ・飼料	x	x	x	x	x	x	x	x
11 繊維工業	−	−	−	−	−	−	x	x
12 木材・木製品	x	x	x	x	x	x	x	x
13 家具・装備品	−	−	−	−	−	−	−	−
14 パルプ・紙・紙加工品	−	−	−	−	−	−	−	−
15 印刷・同関連業	x	x	x	x	x	x	x	x
16 化学工業	−	−	−	−	−	−	−	−
17 石油製品・石炭製品	−	−	−	−	−	−	−	−
18 プラスチック製品	x	x	x	x	x	x	x	x
19 ゴム製品	−	−	−	−	−	−	−	−
20 なめし革・同製品・毛皮	−	−	−	−	−	−	−	−
21 窯業・土石製品	−	−	−	−	−	−	−	−
22 鉄鋼業	x	x	x	x	x	x	x	x
23 非鉄金属	−	−	−	−	−	−	−	−
24 金属製品	x	x	x	x	x	x	x	x
25 はん用機械器	−	−	−	−	−	−	−	−
26 生産用機械器具	−	−	−	−	−	−	−	−
27 業務用機械器具	x	x	x	x	x	x	x	x
28 電子部品・デバイス・電子回路	−	−	−	−	−	−	−	−
29 電気機械器具	x	x	x	x	x	x	−	−
30 情報通信機械器具	−	−	−	−	−	−	−	−
31 輸送用機械器具	x	x	x	x	x	x	x	x
32 その他の製造業	−	−	−	−	−	−	−	−

産業中分類	平成２８年		平成２９年		平成３０年		令和元年	
	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	出荷額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合計	3, 470	3, 577	3, 681	3, 718	3, 681	3, 645	3, 706	3, 633
09 食料品（製造業）	x	x	x	x	x	x	x	x
10 飲料・たばこ・飼料	x	x	x	x	x	x	x	x
11 繊維工業	−	−	−	−	−	−	−	−
12 木材・木製品	x	x	x	x	x	x	−	−
13 家具・装備品	−	−	−	−	−	−	−	−
14 パルプ・紙・紙加工品	−	−	−	−	−	−	−	−
15 印刷・同関連業	x	x	x	x	x	x	x	x
16 化学工業	−	−	−	−	−	−	−	−
17 石油製品・石炭製品	−	−	−	−	−	−	−	−
18 プラスチック製品	x	x	x	x	x	x	x	x
19 ゴム製品	−	−	−	−	−	−	−	−
20 なめし革・同製品・毛皮	−	−	−	−	−	−	−	−
21 窯業・土石製品	−	−	−	−	−	−	−	−
22 鉄鋼業	x	x	x	x	x	x	x	x
23 非鉄金属	−	−	−	−	−	−	−	−
24 金属製品	x	x	x	x	x	x	x	x
25 はん用機械器	−	−	−	−	−	−	−	−
26 生産用機械器具	−	−	−	−	−	−	−	−
27 業務用機械器具	x	x	x	x	x	x	x	x
28 電子部品・デバイス・電子回路	x	x	x	x	x	x	x	x
29 電気機械器具	x	x	x	x	x	x	−	−
30 情報通信機械器具	−	−	−	−	−	−	−	−
31 輸送用機械器具	x	x	x	x	x	x	x	x
32 その他の製造業	−	−	−	−	−	−	−	−

資料：工業統計調査、経済センサス-活動調査

注１）デフレータ補正値は、平成 27 年を 100 とした企業物価指数（日本銀行調査統計局）により割り戻した

注２）平成 13 年以降は事業者４人以上の事業所の数値

注３）「−」は該当数値なし、「x」は統計法により公表を控えたもの

注４）平成 20 年以降の産業中分類の項目名・定義は平成 19 年の日本標準産業分類の改訂後のものを適用しているため、平成 19 年以前のものと合致しない

工業出荷額推計

デフレータ補正値による工業出荷額の推計をみると、全ての推計値で減少傾向となった。

そのうち等比式によると、令和 21 年には約 20 億円まで下落し、令和元年の 54.3%程度になると推測される。

なお、本推計は数学的手法に基づいて算出した結果であり、過去の工業出荷額推移の影響を強く受けている。

表 13　工業出荷額推計（デフレータ補正値）

単位：100万円

		H11 1999	H16 2004	H21 2009	H26 2014	R元 2019	R６ 2024	R11 2029	R16 2034	R21 2039
実績値		6, 692	4, 534	3, 504	3, 351	3, 633				
推計値	等差式						2, 868	2, 104	1, 339	575
	等比式						3, 118	2, 677	2, 298	1, 972
	１次式						2, 152	1, 422	692	▲ 38
	２次式						1, 358	627	▲ 102	▲ 832
	指数式						2, 653	2, 278	1, 956	1, 679

資料：工業統計調査

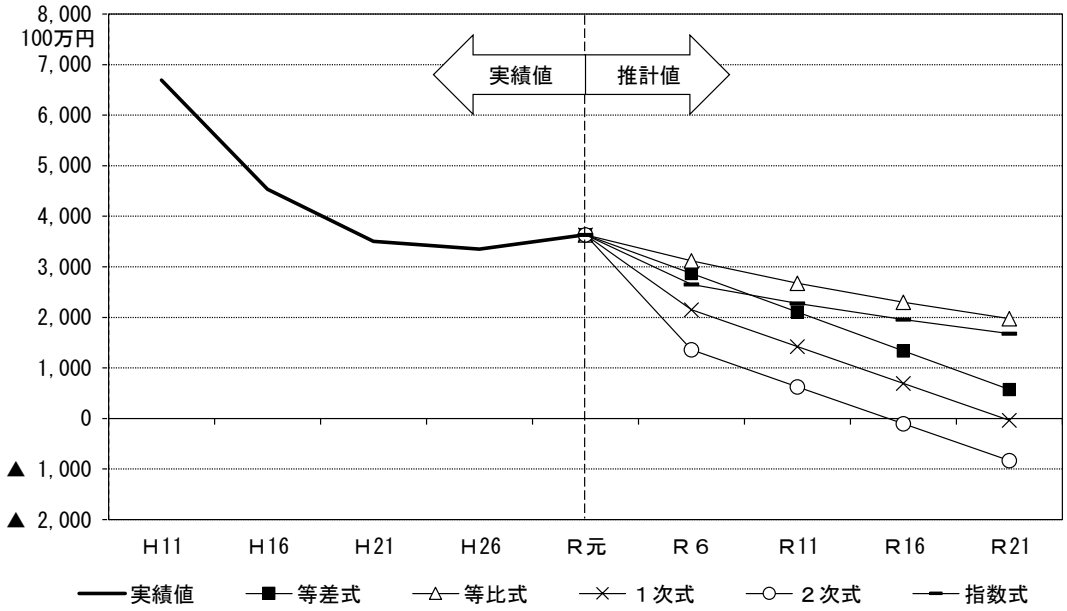


図 22　工業出荷額推計（デフレータ補正値）

C0202-3　産業中分類別商業販売額

年間商品販売額のデフレータ補正値での推移をみると、平成６年の約 33 億円から減少傾向が続き、平成 24 年には約 15 億円まで減少、その後は約 24 億円に回復している。

平成 28 年の産業中分類別年間商品販売額を構成比でみると、飲食料品小売業が 56.7%と最も多くなっている。

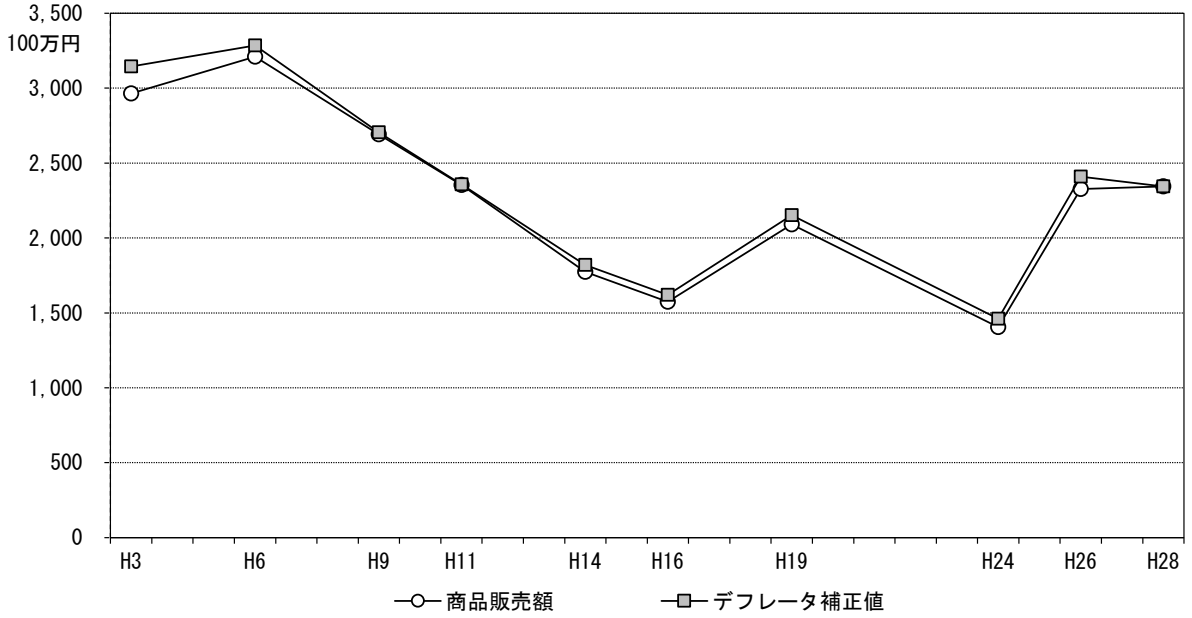


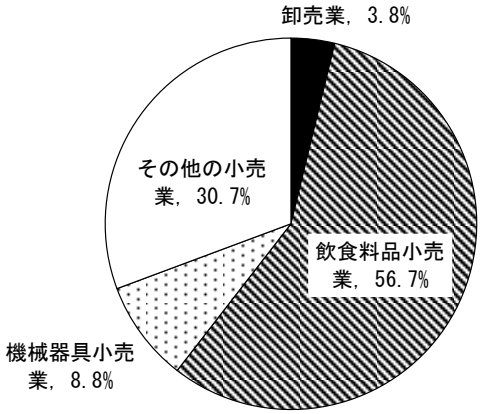
図 23　年間商品販売額推移

表 14　年間商品販売額推移

単位:100万円

	販売額	デフレータ補正値
平成３年	2,965	3,144
平成６年	3,210	3,286
平成９年	2,691	2,705
平成11年	2,353	2,358
平成14年	1,774	1,819
平成16年	1,575	1,620
平成19年	2,091	2,151
平成24年	1,406	1,460
平成26年	2,327	2,409
平成28年	2,343	2,343

資料：商業統計調査、経済センサス-活動調査



注）公表を控えたものを除く合計

図 24　産業中分類別年間商品販売額構成比（平成 28 年）

表 15　産業中分類別年間商品販売額推移

単位:100万円

産業中分類	平成３年		平成６年		平成９年		平成１１年	
	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合計	2,965	3,144	3,210	3,286	2,691	2,705	2,353	2,358
40～41. 卸売業	x	x	x	x	－	－	x	x
42. 代理商、仲立業	－	－	－	－	－	－	－	－
小売業小計	x	x	x	x	2,691	2,705	x	x
43. 各種商品小売業	－	－	x	x	－	－	－	－
44. 織物・衣服・身の回り品小売業	123	130	183	187	163	164	133	133
45. 飲食料品小売業	1,875	1,988	2,053	2,101	1,304	1,311	1,308	1,311
46. 飲食店	－	－	－	－	－	－	－	－
47. 自動車・自転車小売業	351	372	365	374	x	x	449	450
48. 家具・建具・じゅう器小売業	66	70	38	39	x	x	x	x
49. その他の小売業	528	560	562	575	x	x	x	x

産業中分類	平成１４年		平成１６年		平成１９年	
	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合計	1,774	1,819	1,575	1,620	2,091	2,151
40～41. 卸売業	x	x	x	x	88	91
42. 代理商、仲立業	－	－	－	－	－	－
小売業小計	x	x	x	x	2,003	2,061
43. 各種商品小売業	－	－	x	x	－	－
44. 織物・衣服・身の回り品小売業	145	149	x	x	94	97
45. 飲食料品小売業	767	787	567	583	1,098	1,130
46. 飲食店	－	－	－	－	－	－
47. 自動車・自転車小売業	285	292	297	306	243	250
48. 家具・建具・じゅう器小売業	x	x	x	x	x	x
49. その他の小売業	583	598	494	508	x	x

産業中分類	平成２４年		平成２６年		平成２８年	
	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値	販売額	ﾃﾞﾌﾚｰﾀ補正値
合計	1,406	1,460	2,327	2,409	2,343	2,343
卸売業計	114	118	142	147	86	86
50. 各種商品卸売業	－	－			－	－
51. 繊維・衣服等卸売業	－	－			x	x
52. 飲食料品卸売業	x	x			x	x
53. 建築材料，鉱物・金属材料等卸売業	x	x			x	x
54. 機械器具卸売業	－	－			－	－
55. その他の卸売業	x	x			－	－
小売業計	1,292	1,342	2,185	2,262	2,257	2,257
56. 各種商品小売業	－	－	x	x	－	－
57. 織物・衣服・身の回り品小売業	x	x	x	x	x	x
58. 飲食料品小売業	872	906	1,103	1,142	1,286	1,286
59. 機械器具小売業	172	179	187	194	200	200
60. その他の小売業	x	x	606	627	696	696
61. 無店舗小売業	－	－	x	x	x	x

資料：商業統計調査、経済センサス-活動調査

注１）平成 19 年以前の合計及び小売業小計には、飲食店は含まれていない

注２）平成 26 年について、町村別の卸売業の内訳は公表なし

注３）デフレータ補正値は、平成 27 年を 100 とした消費者物価指数（総務省統計局）により割り戻した値

注４）「－」は該当数値なし、「x」は統計法により公表を控えたもの

注５）平成 24 年以降の産業中分類の項目名・定義は平成 19 年の日本標準産業分類の改訂後のものを適用しているため、平成 19 年以前のものと合致しない

商品販売額推計

デフレータ補正値による年間商品販売額推計によると、推計方式により数値に幅はあるものの減少傾向が続き、そのうち等比式によると令和 18 年には約 19 億円になると推測される。

なお、本推計は数学的手法に基づいて算出した結果であり、過去の年間商品販売額推移の影響を強く受けている。

表 16　年間商品販売額推計　　単位：100万円

		H14 2002	H19 2007	H24 2012	H28 2016	R３ 2021	R８ 2026	R13 2031	R18 2036
実績値		1, 819	2, 151	1, 460	2, 343				
推計値	等差式					2, 204	2, 066	1, 927	1, 789
	等比式					2, 222	2, 107	1, 998	1, 894
	１次式					1, 712	1, 562	1, 412	1, 262
	２次式					1, 304	1, 153	1, 002	851
	指数式					1, 745	1, 635	1, 533	1, 436

資料：商業統計調査、経済センサス-活動調査

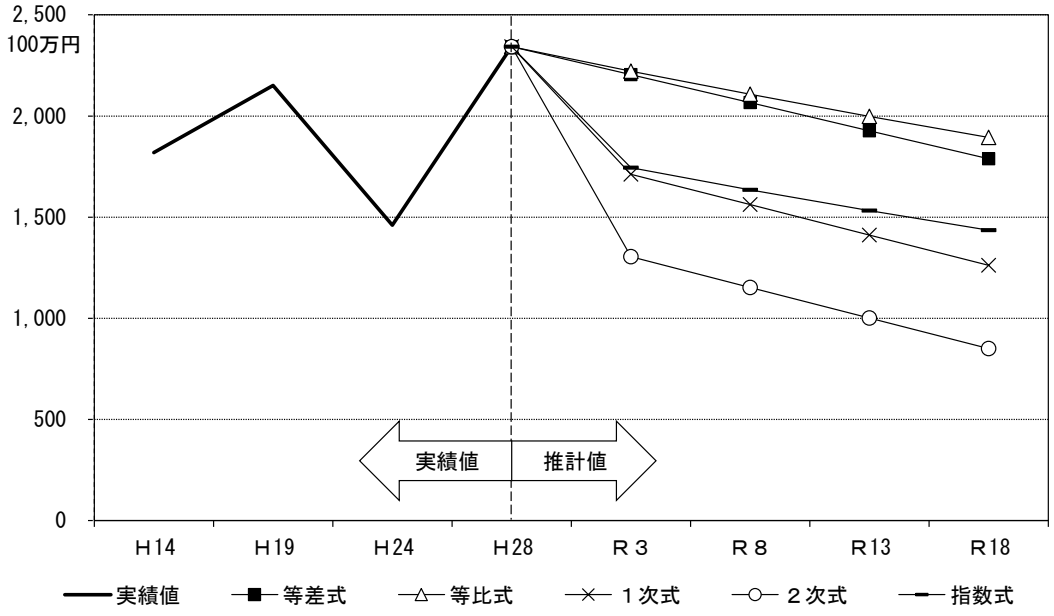


図 25　年間商品販売額推計（デフレータ補正値）

③　土地利用

C0302　土地利用現況

C0302-2　土地利用別面積

都市計画区域における土地利用別面積は、自然的土地利用が 4,347.6ha（88.0%）であり、そのうち山林が 2,993.6ha(60.6%)、農地が 967.9ha(19.6%)を占めている。都市的土地利用は 594.4ha（12.0%）であり、そのうち宅地は 230.7ha（4.7%）となっている。

また、用途地域指定区域 92.0ha のうち都市的土地利用が 62.9ha（68.4%）であり、そのうち宅地が 35.8ha（38.9%）と多くを占めている。農地は用途地域指定区域内に 23.9ha（26.0%）残存している。用途地域指定外区域は 4,850.0ha のうち自然的土地利用が 4,318.5ha(89.0%)であり、そのうち山林が 2,991.9ha（61.7%）、農地が 944.0ha（19.5%）を占めている。

表 17　土地利用別面積

土地利用区分			都市計画区域		用途地域指定区域		用途地域指定外区域	
			ha	構成比	ha	構成比	ha	構成比
自然的土地利用	農地	田	465.4	9.4%	11.1	12.1%	454.3	9.4%
		畑	502.5	10.2%	12.8	13.9%	489.7	10.1%
		小　計	967.9	19.6%	23.9	26.0%	944.0	19.5%
	山　林		2,993.6	60.6%	1.7	1.8%	2,991.9	61.7%
	水　面		129.4	2.6%	0.3	0.3%	129.1	2.7%
	その他の自然地		256.7	5.2%	3.2	3.5%	253.5	5.2%
	小　計		4,347.6	88.0%	29.1	31.6%	4,318.5	89.0%
都市的土地利用	宅地	住宅用地	183.9	3.7%	25.7	27.9%	158.2	3.3%
		商業用地	10.8	0.2%	5.7	6.2%	5.1	0.1%
		工業用地	36.0	0.7%	4.4	4.8%	31.6	0.7%
		小　計	230.7	4.7%	35.8	38.9%	194.9	4.0%
	公共・公益用地		107.8	2.2%	13.5	14.7%	94.3	1.9%
	道路用地		220.2	4.5%	11.4	12.4%	208.8	4.3%
	交通施設用地		1.3	0.03%	0.0	0.0%	1.3	0.03%
	その他の空地		34.4	0.7%	2.2	2.4%	32.2	0.7%
	小　計		594.4	12.0%	62.9	68.4%	531.5	11.0%
合　計			4,942.0	100.0%	92.0	100.0%	4,850.0	100.0%
可　住　地			4,225.2	85.5%	62.2	67.6%	4,163.0	85.8%
非　可　住　地			716.8	14.5%	29.8	32.4%	687.0	14.2%

資料：土地利用現況図

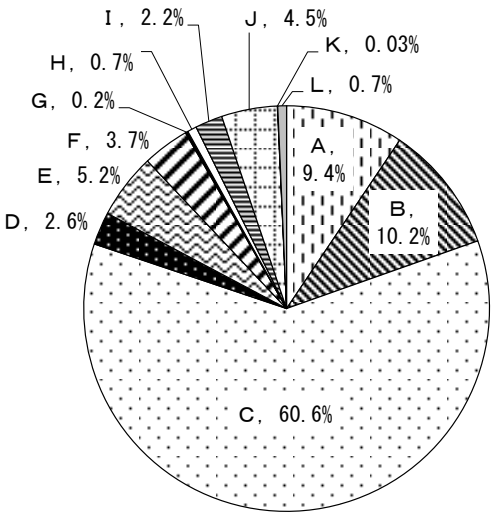
注１）「公共・公益用地」は土地利用現況図の「公益施設用地」と「公共空地」の合計

注２）非可住地は、以下のとおりとする

「水面」、「その他の自然地」、「商業用地」の内で敷地面積１ha 以上の大規模施設用地、「公共・公益用地」、「道路用地」、「交通施設用地」、「その他公的施設用地」、これらのほか、土地利用状況に関係なく全ての工業専用地域

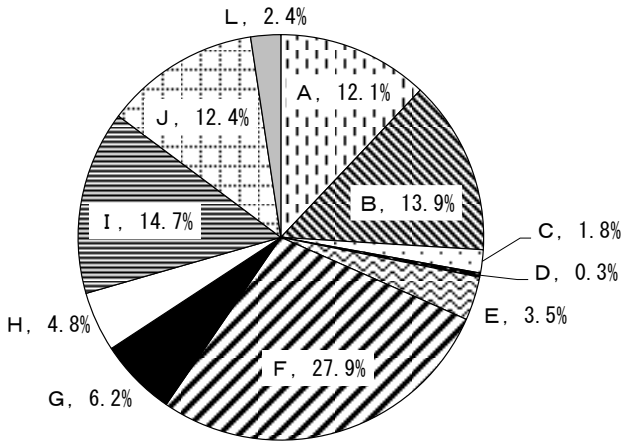
都市計画区域	ha	構成比
A 田	465.4	9.4%
B 畑	502.5	10.2%
C 山林	2,993.6	60.6%
D 水面	129.4	2.6%
E その他の自然地	256.7	5.2%
F 住宅用地	183.9	3.7%
G 商業用地	10.8	0.2%
H 工業用地	36.0	0.7%
I 公共・公益用地	107.8	2.2%
J 道路用地	220.2	4.5%
K 交通施設用地	1.3	0.03%
L その他の空地	34.4	0.7%
合　　計	4,942.0	100.0%

＜都市計画区域＞



用途地域指定区域	ha	構成比
A 田	11.1	12.1%
B 畑	12.8	13.9%
C 山林	1.7	1.8%
D 水面	0.3	0.3%
E その他の自然地	3.2	3.5%
F 住宅用地	25.7	27.9%
G 商業用地	5.7	6.2%
H 工業用地	4.4	4.8%
I 公共・公益用地	13.5	14.7%
J 道路用地	11.4	12.4%
K 交通施設用地	0.0	0.0%
L その他の空地	2.2	2.4%
合　　計	92.0	100.0%

＜用途地域指定区域＞



用途地域指定外区域	ha	構成比
A 田	454.3	9.4%
B 畑	489.7	10.1%
C 山林	2,991.9	61.7%
D 水面	129.1	2.7%
E その他の自然地	253.5	5.2%
F 住宅用地	158.2	3.3%
G 商業用地	5.1	0.1%
H 工業用地	31.6	0.7%
I 公共・公益用地	94.3	1.9%
J 道路用地	208.8	4.3%
K 交通施設用地	1.3	0.03%
L その他の空地	32.2	0.7%
合　　計	4,850.0	100.0%

＜用途地域指定外区域＞

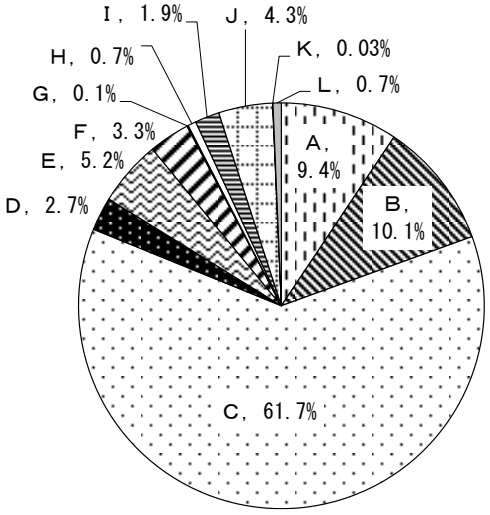


図 26　土地利用別面積構成比

C0304　宅地開発状況

平成 27 年から令和元年の過去５年間の開発行為はなかった。

また、令和元年までの面整備実績は累計 11.95ha で、用途は住宅とその他であり、商業、工業、農林漁業は１件もなかった。年次別では、平成６年以前が 7.21ha と最も多く、全体の約 60%を占める。

表 18　開発行為許可状況

年　次	都市計画区域					
	住　宅	商　業	工　業	農林漁業	その他	合　計
	㎡　(件)	㎡　(件)	㎡　(件)	㎡　(件)	㎡　(件)	㎡　(件)
～昭和60年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
昭和61年	12,560.00　(1)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	12,560.00　(1)
昭和62年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
昭和63年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成元年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	24,931.00　(1)	24,931.00　(1)
平成２年	15,851.00　(1)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	15,851.00　(1)
平成３年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成４年	18,789.00　(1)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	18,789.00　(1)
平成５年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成６年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成７年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成８年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成９年	24,264.55　(1)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	24,264.55　(1)
平成10年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成11年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成12年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成13年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成14年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成15年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成16年	10,324.27　(1)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	10,324.27　(1)
平成17年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成18年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成19年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成20年	4,081.88　(1)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	4,081.88　(1)
平成21年	8,724.94　(1)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	8,724.94　(1)
平成22年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成23年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成24年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成25年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成26年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成27年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成28年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成29年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
平成30年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
令和元年	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)
合　　計	94,595.64　(7)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	24,931.00　(1)	119,526.64　(8)
H27～R元 過去５年合計	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)	0.00　(0)

資料：開発行為許可申請書

注）3,000 ㎡以上の開発行為について集計

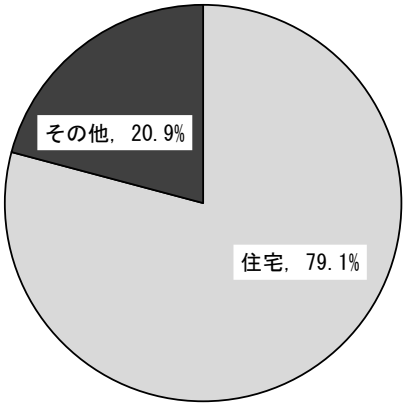


図 27　用途別開発許可状況（令和元年までの合計面積構成比）

表 19　面整備実績

単位：ha

完了年次	市街地開発事業等（注１）	公的宅地開発（注２）	開発許可等（注３）	合　計	累　計
平成６年以前	－	－	7.21	7.21	7.21
平成７～11年	－	－	2.43	2.43	9.64
平成12～16年	－	－	1.03	1.03	10.67
平成17～21年	－	－	1.28	1.28	11.95
平成22～26年	－	－	－	－	11.95
平成27～令和元年	－	－	－	－	11.95

資料：開発行為許可申請書

注１）「公的宅地開発」「開発許可」以外のもの
注２）市街地開発事業によらない、公団・公社・市町村等の公的住宅造成
注３）開発許可による開発行為、及び「（旧）住宅地造成事業に関する法律」により許可された宅地造成

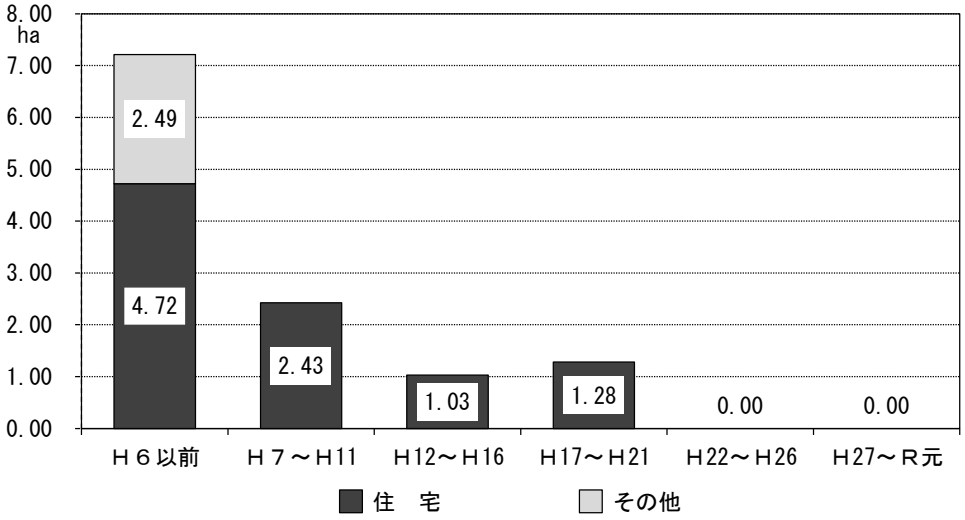


図 28　用途別面整備実績の推移

C0305　農地転用状況

平成 27 年度から令和元年度までの５年間の農地転用面積は、用途地域指定区域では 6,302.00 ㎡、用途地域指定外区域では 78,586.32 ㎡の合計 84,888.32 ㎡となっている。また、５年間の農地面積における転用率は用途地域指定区域が 3.9%、用途地域指定外区域が 1.7%となっており、用途地域指定区域における転用率の方が高い。

転用目的を件数でみると、用途地域指定区域、用途地域指定外区域ともに住宅への転用が６割以上を占めている。面積でみると用途地域指定区域は住宅が最も多く、用途地域指定外区域ではその他が最も多くなっている。

表 20　農地転用推移

区域区分 ＼ 転用用途		住宅用地		工業用地		公共用地		その他		合計		前年末の農地面積	注）転用率
		件数 件	面積 ㎡	件数 件	面積 ㎡	件数 件	面積 ㎡	件数 件	面積 ㎡	件数 件	面積 ㎡	㎡	%
用途地域指定区域	平成27年	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	159,762.00	0.0
	平成28年	2	459.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	2	459.00	159,303.00	0.3
	平成29年	1	2,464.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	2,464.00	156,839.00	1.6
	平成30年	4	2,154.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	2,154.00	154,685.00	1.4
	令和元年	0	0.00	0	0.00	1	726.00	1	499.00	2	1,225.00	153,460.00	0.8
	合　計	7	5,077.00	0	0.00	1	726.00	1	499.00	9	6,302.00		3.9
用途地域指定外区域	平成27年	4	1,949.00	2	14,064.00	0	0.00	3	4,246.00	9	20,259.00	4,510,238.00	0.4
	平成28年	16	9,041.00	1	1,230.00	0	0.00	4	7,866.00	21	18,137.00	4,492,101.00	0.4
	平成29年	9	4,705.00	1	4,363.00	0	0.00	2	1,638.00	12	10,706.00	4,481,395.00	0.2
	平成30年	8	5,235.00	0	0.00	0	0.00	4	15,537.00	12	20,772.00	4,460,623.00	0.5
	令和元年	7	3,518.32	2	1,859.00	0	0.00	3	3,335.00	12	8,712.32	4,451,910.68	0.2
	合　計	44	24,448.32	6	21,516.00	0	0.00	16	32,622.00	66	78,586.32		1.7
合計	平成27年	4	1,949.00	2	14,064.00	0	0.00	3	4,246.00	9	20,259.00	4,670,000.00	0.4
	平成28年	18	9,500.00	1	1,230.00	0	0.00	4	7,866.00	23	18,596.00	4,651,404.00	0.4
	平成29年	10	7,169.00	1	4,363.00	0	0.00	2	1,638.00	13	13,170.00	4,638,234.00	0.3
	平成30年	12	7,389.00	0	0.00	0	0.00	4	15,537.00	16	22,926.00	4,615,308.00	0.5
	令和元年	7	3,518.32	2	1,859.00	1	726.00	4	3,834.00	14	9,937.32	4,605,370.68	0.2
	合　計	51	29,525.32	6	21,516.00	1	726.00	17	33,121.00	75	84,888.32		1.8

資料：農地転用４条、５条一覧、2015 年世界農林業センサス

注）転用率＝過去１年間の農地転用面積／前年の農地面積×100
　　＝５年間の農地転用面積／５年前の農地面積×100

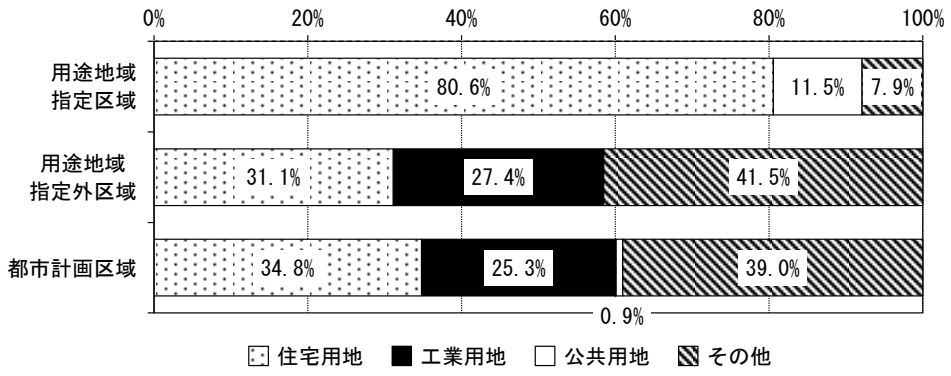


図 29　農地転用面積構成比（５年間の合計面積）

C0307　新築動向

平成 27 年度から令和元年度までの５年間における都市計画区域の新築動向は、件数が 88 件、平均敷地面積が 546.17 ㎡（約 165 坪）、平均建ぺい率が 21.1%、平均容積率が 24.6%である。

そのうち用途地域指定区域の件数は 17 件で全新築件数の 19.3%になる。

建物用途別にみると、住宅が 69 件であり全体の 78.4%を占めている。用途地域指定区域では住宅が 76.5%であり、工業とその他がともに 11.8%となっている。用途地域指定外区域では住宅が 78.9%、次いでその他が 12.7%となっている。

大字別では片桐が 45 件と最も多く、全体の 51.1%を占めている。分布状況をみると、役場の南東部や主要地方道伊那生田飯田線沿いの一部で比較的集積している。

表 21　用途地域内外別新築動向

	新築件数（件）					敷地面積合計(㎡)	平均敷地面積(㎡)	建築面積合計(㎡)	平均建ぺい率(%)	延床面積合計(㎡)	平均容積率(%)
	合計	住宅	商業	工業	他						
用途地域指定区域	17	13	0	2	2	8,184.55	481.44	1,805.03	22.1	2,431.21	29.7
用途地域指定外区域	71	56	2	4	9	39,878.38	561.67	8,342.28	20.9	9,371.06	23.5
都市計画区域	88	69	2	6	11	48,062.93	546.17	10,147.31	21.1	11,802.27	24.6

資料：建築確認申請受付簿(平成 27 年度～令和元年度)

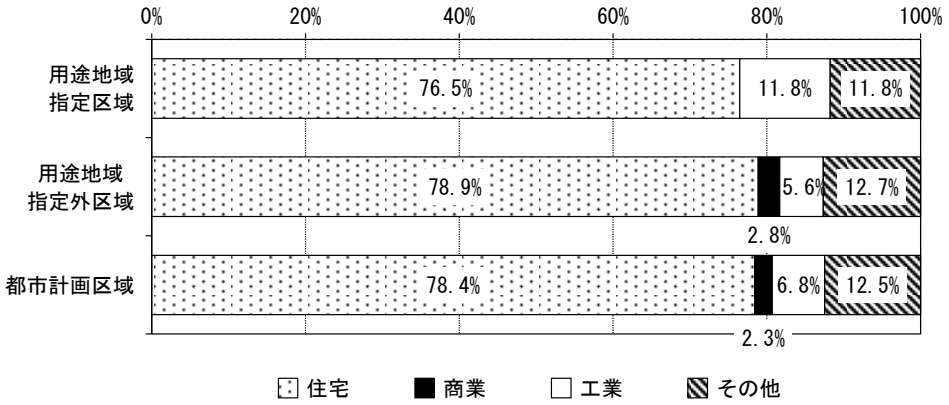


図 30　用途地域内外別建物用途別新築建物件数構成比

表 22　地域別新築動向（大字別）

	新築件数（件）					敷地面積合計(㎡)	平均敷地面積(㎡)	建築面積合計(㎡)	平均建ぺい率(%)	延床面積合計(㎡)	平均容積率(%)
	合計	住宅	商業	工業	他						
大草	35	31	0	1	3	19,417.06	554.77	3,872.64	19.9	4,445.41	22.9
片桐	45	31	2	4	8	23,733.73	527.42	5,011.76	21.1	5,947.03	25.1
葛島	8	7	0	1	0	4,912.14	614.02	1,262.91	25.7	1,409.83	28.7
都市計画区域	88	69	2	6	11	48,062.93	546.17	10,147.31	21.1	11,802.27	24.6

資料：建築確認申請受付簿(平成 27 年度～令和元年度)

表 23　地区別新築動向（用途地域指定区域）

大字名	新築件数（件）					敷地面積合計(㎡)	平均敷地面積(㎡)	建築面積合計(㎡)	平均建ぺい率(%)	延床面積合計(㎡)	平均容積率(%)
	合計	住宅	商業	工業	他						
下平	0	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－
中組	8	7	0	0	1	3,131.25	391.41	658.31	21.0	1,086.12	34.7
沖町	1	1	0	0	0	612.53	612.53	82.81	13.5	106.64	17.4
小和田	0	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－
中央	2	2	0	0	0	998.75	499.38	168.57	16.9	281.65	28.2
田島	2	2	0	0	0	728.80	364.40	160.62	22.0	158.04	21.7
中田島	1	0	0	1	0	454.48	454.48	159.81	35.2	192.88	42.4
牧ヶ原	2	0	0	1	1	1,902.90	951.45	501.42	26.4	487.88	25.6
南原	1	1	0	0	0	355.84	355.84	73.49	20.7	118.00	33.2
北組	0	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－
用途地域指定区域合計	17	13	0	2	2	8,184.55	481.44	1,805.03	22.1	2,431.21	29.7

資料：建築確認申請受付簿(平成 27 年度～令和元年度)

表 24　地区別新築動向（用途地域指定外区域）

地区名	新築件数（件）					敷地面積合計(㎡)	平均敷地面積(㎡)	建築面積合計(㎡)	平均建ぺい率(%)	延床面積合計(㎡)	平均容積率(%)
	合計	住宅	商業	工業	他						
飯沼	1	0	0	1	0	220.80	220.80	58.92	26.7	58.92	26.7
美里	3	1	0	0	2	3,002.41	1,000.80	455.00	15.2	461.12	15.4
北組	2	2	0	0	0	913.99	457.00	320.62	35.1	297.00	32.5
下平	4	4	0	0	0	3,129.93	782.48	558.90	17.9	580.26	18.5
八幡平	1	1	0	0	0	445.51	445.51	84.48	19.0	146.72	32.9
中組	1	1	0	0	0	404.26	404.26	90.67	22.4	117.16	29.0
沖町	1	1	0	0	0	536.90	536.90	144.61	26.9	115.03	21.4
三共	10	10	0	0	0	6,066.55	606.66	1,142.23	18.8	1,218.88	20.1
南陽	3	3	0	0	0	952.93	317.64	276.09	29.0	257.56	27.0
桑原	0	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－
葛北	5	5	0	0	0	2,787.53	557.51	659.93	23.7	874.53	31.4
柏原	1	1	0	0	0	1,018.96	1,018.96	298.26	29.3	253.82	24.9
渡場	2	1	0	1	0	1,105.65	552.83	304.72	27.6	281.48	25.5
柳沢	0	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－
横前	7	6	0	0	1	2,999.89	428.56	890.50	29.7	1,126.41	37.5
針ヶ平	1	1	0	0	0	1,446.51	1,446.51	243.13	16.8	176.11	12.2
小平	2	2	0	0	0	729.19	364.60	201.77	27.7	194.38	26.7
竹の上	3	2	0	1	0	1,417.88	472.63	220.86	15.6	376.27	26.5
小和田	3	3	0	0	0	1,608.39	536.13	338.12	21.0	412.96	25.7
中央	1	1	0	0	0	694.04	694.04	129.21	18.6	175.31	25.3
中通	4	2	0	1	1	2,551.39	637.85	495.36	19.4	470.62	18.4
上前沢	1	1	0	0	0	369.89	369.89	94.10	25.4	133.31	36.0
田島	6	2	2	0	2	4,482.60	747.10	591.99	13.2	604.39	13.5
中田島	5	3	0	0	2	1,635.25	327.05	451.74	27.6	595.28	36.4
南田島	4	3	0	0	1	1,357.93	339.48	291.07	21.4	443.54	32.7
牧ヶ原	0	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－
南原	0	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－
四徳	0	0	0	0	0	－	－	－	－	－	－
用途地域指定外区域合計	71	56	2	4	9	39,878.38	561.67	8,342.28	20.9	9,371.06	23.5
都市計画区域合計	88	69	2	6	11	48,062.93	546.17	10,147.31	21.1	11,802.27	24.6

資料：建築確認申請受付簿(平成 27 年度～令和元年度)

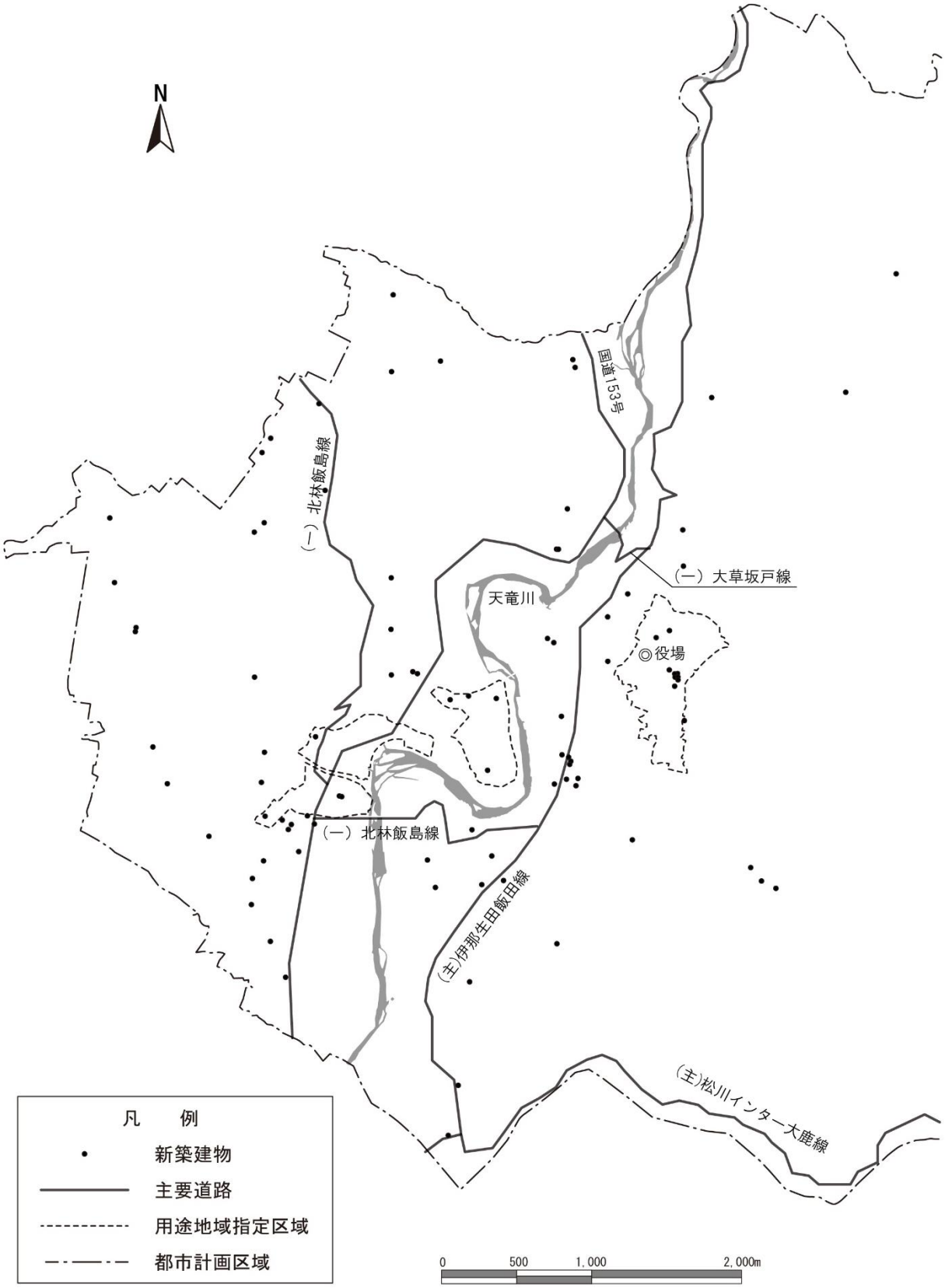

N
国道153号
(一) 北林飯島線
(一) 大草坂戸線
天竜川
◎役場
(一) 北林飯島線
(主)伊那生田飯田線
(主)松川インター大鹿線
凡　例
新築建物
主要道路
用途地域指定区域
都市計画区域
0
500
1,000
2,000m

図 31　新築建物分布図

C0308　条例・協定

都市計画に関する条例・要綱のうち県決定は長野県景観条例、屋外広告物条例等がある。また、中川村はそれら県条例及び各法令に基づき、中川村都市計画審議会条例、中川村都市公園条例を定めており、加えて、魅力ある村づくりを進めていくことを目的に中川村美しい村づくり条例を定めている。

また、建築協定、緑化協定及び地区計画等の決定はない。地域地区については用途地域が 92ha 指定されており、そのうち住居系用途地域は 68.5%を占める。防火地域、準防火地域、高度利用地区、風致地区等の指定はない。

表 25　都市計画に関する条例・要綱

決定主体	条例・要綱等の名称	公布・決定年月日 当初	公布・決定年月日 最終	概要・主旨等
長野県	長野県景観条例	H 4. 3.19	H29. 3.23	景観育成に関する各々の責務を明らかにすることにより地域の特性を生かした景観育成を図るための事項を定めるもの。
	屋外広告物条例	H 5.10.18	R元. 7.16	屋外広告物法の規定に基づく屋外広告物の表示等、必要な事項を定めるもの。
	都市計画法に基づく開発許可等の基準に関する条例	H16. 3.29	H19.10.22	都市計画法に基づく開発行為に関する基準について定めるもの。
	長野県福祉のまちづくり条例	H 7. 3.30	H27.12.17	福祉のまちづくりに関し、県、市町村、県民及び事業者の責務の明確化及び不特定かつ多数の者の利用する施設における整備基準を定めるもの。
	長野県附属機関条例	R 2. 3.19	―	地方自治法の規定により、執行機関の附属機関（長野県都市計画審議会等）の設置並びにその組織及び運営に関し必要な事項を定めるもの。
中川村	中川村都市計画審議会条例	S51. 6.15	H23.12.19	都市計画法規定により設置し都市計画に関する事項を調査審議する審議会に関し必要な事項を定めるもの。
	中川村都市公園条例	H11.12.14	H25. 3.12	都市公園の設置及び管理等に関し必要な事項を定めるもの。
	中川村美しい村づくり条例	H26. 3.13	―	中川村の美しい景観を守り、育て、さらに生かして魅力ある村づくりを進めるための事項を定めるもの。

資料：長野県例規集、中川村例規集

表 26　都市地域（用途地域指定区域）

用途地域指定区域(ha)	用途地域指定区域(ha) 総面積	住居専用地域 第一種低層	住居専用地域 第二種低層	住居専用地域 第一種中高層	住居専用地域 第二種中高層	住居地域 第一種	住居地域 第二種	準住居地域	田園住居地域	近隣商業地域	商業地域	準工業地域	工業地域	工業専用地域	備考
4,850	92	15	-	30	-	12	6	-	-	12	-	17	-	-	用途地域決定年月日 平成７年10月17日 人口総数 4,850人 (平成27年国勢調査)

資料：庁内資料

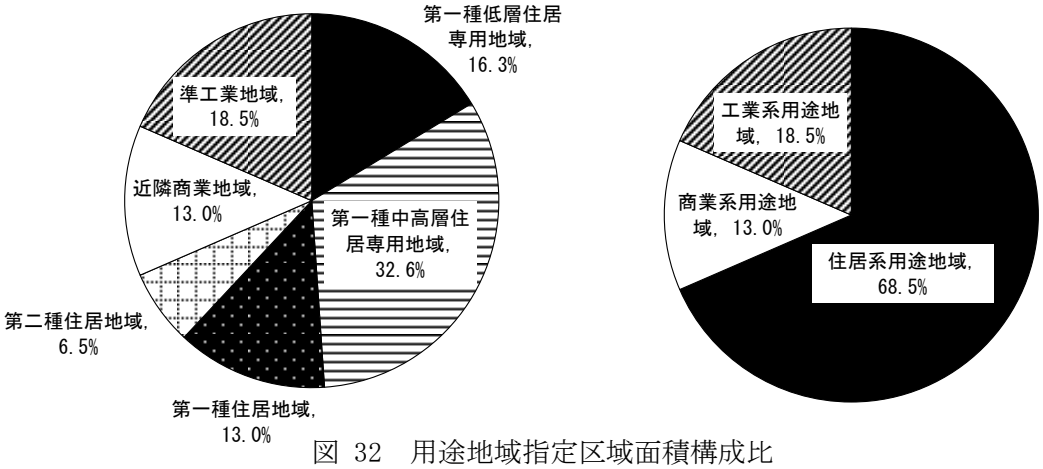


図 32　用途地域指定区域面積構成比

④ 建　物

C0401　建物用途別現況

C0401-2　地区別木造率現況

用途地域指定区域における木造率は棟数では 73.2%、延床面積では 50.0%となっている。

地区別では中田島の木造率が最も高く、棟数・延床面積ともに 95%を超えている。一方、牧ヶ原は公共施設が集積しているため、木造率が低くなっている。

表 27　地区別木造率現況

地区名	全建物 棟数(棟)	全建物 延床面積(㎡)	木造建物			
			棟数(棟)	比率(%)	延床面積(㎡)	比率(%)
下　平	0	0.00	0	-	0.00	-
中　組	260	34,382.69	176	67.7	16,514.57	48.0
沖　町	206	15,900.52	171	83.0	14,126.31	88.8
小和田	4	780.96	0	-	0.00	-
中　央	177	28,556.00	113	63.8	10,473.30	36.7
田　島	235	19,555.81	193	82.1	16,248.84	83.1
中田島	65	5,100.13	62	95.4	4,914.69	96.4
牧ヶ原	76	32,781.26	26	34.2	2,726.42	8.3
南　原	135	14,519.53	108	80.0	11,816.57	81.4
北　組	7	2,631.55	4	57.1	328.13	12.5
合　計	1,165	154,208.45	853	73.2	77,148.83	50.0

資料：家屋課税台帳、県財産活用課、村有財産台帳他

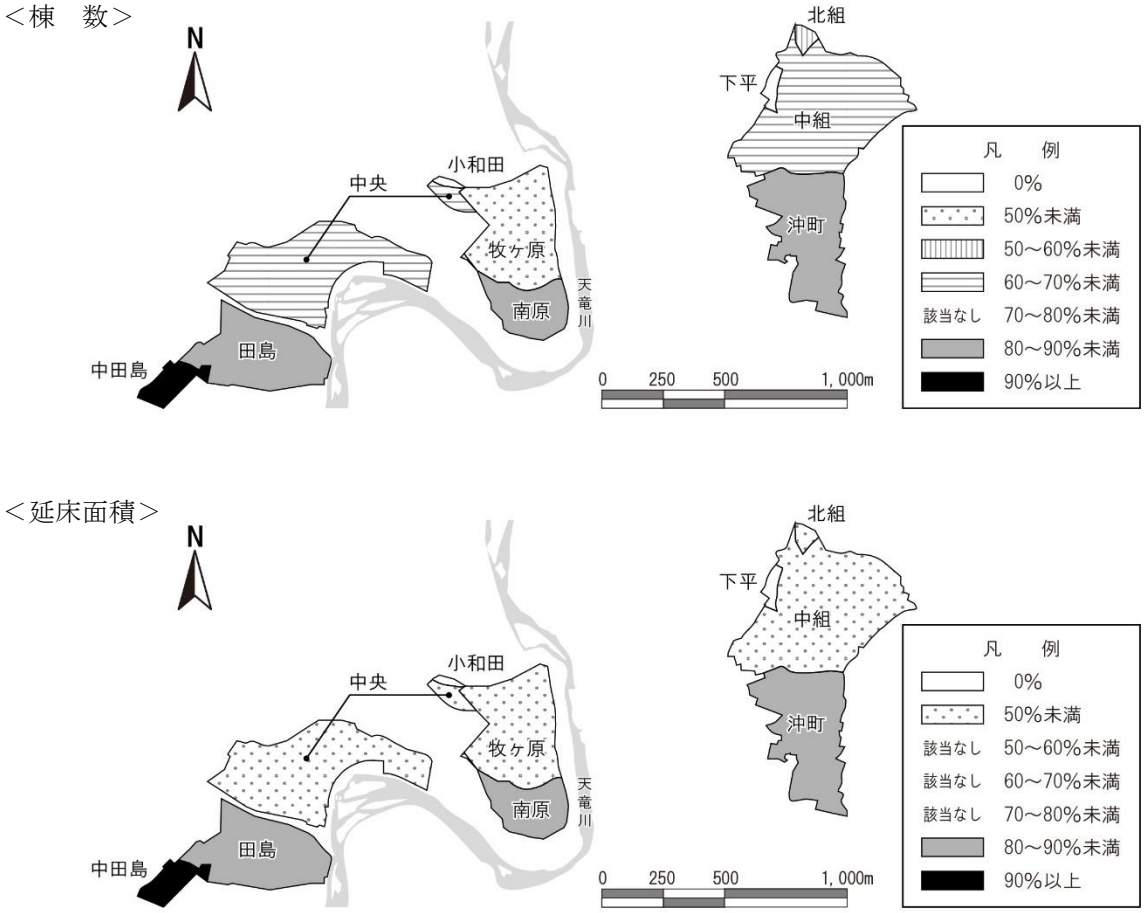


図 33　地区別木造率現況

C0401-3　地区別建ぺい率現況

用途地域指定区域における建ぺい率は、ネット建ぺい率が 21.1%、グロス建ぺい率が 11.0%となっている。

地区別ネット建ぺい率をみると、最大で準工業地域の小和田が 43.5%となっており、続いて近隣商業地域の北組が 36.3%、主に第一種中高層住居専用地域及び準工業地域が占める牧ヶ原が 33.7%となっている。

表 28　地区別建ぺい率現況

地区名	ネット建ぺい率			前回建ぺい率の増減		グロス建ぺい率		現況用途地域及び指定建ぺい率
	宅地面積合計(㎡)	建築面積合計(㎡)	建ぺい率 A(%)	前回建ぺい率 B(%)	A－B(%)	地区面積(㎡)	建ぺい率(%)	
下　平	85	0.00	－	－	－	8,000	－	準工（60）
中　組	122,911	21,387.73	17.4	28.2	▲ 10.8	228,000	9.4	1低（50），1中高（60），1住（60），近商（80），準工（60）
沖　町	54,799	9,713.22	17.7	27.3	▲ 9.6	138,000	7.0	1低（50），1住（60）
小和田	1,795	780.96	43.5	47.3	▲ 3.8	3,000	26.0	準工（60）
中　央	100,515	19,960.16	19.9	24.5	▲ 4.7	197,000	10.1	2住（60），近商（80），準工（60）
田　島	63,001	10,033.50	15.9	29.1	▲ 13.2	121,000	8.3	1中高（60），1住（60），近商（80）
中田島	15,367	1,685.85	11.0	23.8	▲ 12.8	21,000	8.0	1住（60），近商（80）
牧ヶ原	77,522	26,091.21	33.7	36.0	▲ 2.3	131,000	19.9	1低（50），1中高（60），1住（60），準工（60）
南　原	39,199	9,981.47	25.5	22.5	2.9	66,000	15.1	1低（50）
北　組	4,898	1,779.10	36.3	13.3	23.0	7,000	25.4	近商（80）
合　計	480,092	101,413.20	21.1	27.9	▲ 6.8	920,000	11.0	

資料：家屋課税台帳、県財産活用課、村有財産台帳他

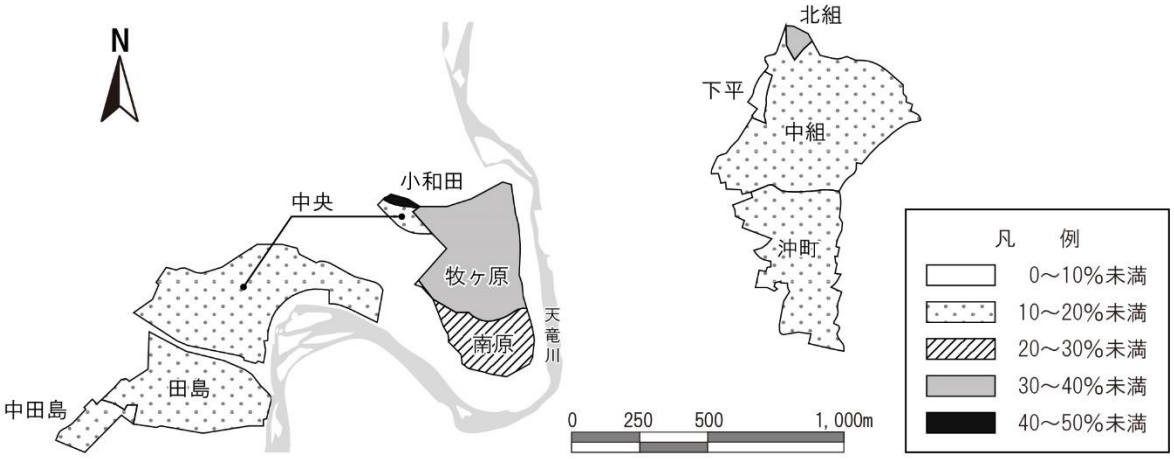


図 34　地区別建ぺい率現況（ネット建ぺい率）

C0401-4　地区別容積率現況

用途地域指定区域におけるネット容積率は 32.1%、グロス容積率は 16.8%となっている。

地区別ネット容積率をみると、北組が 53.7%と最も高く、次いで小和田が 43.5%、牧ヶ原が 42.3%と続いている。

表 29　地区別容積率現況

地区名	ネット容積率			前回	容積率の	グロス容積率		現況用途地域及び指定容積率
	宅地面積合計(㎡)	延床面積合計(㎡)	容積率A(%)	容積率B(%)	増減 A－B(%)	地区面積(㎡)	容積率(%)	
下平	85	0.00	－	－	－	8,000	－	準工（200）
中組	122,911	34,382.69	28.0	42.2	▲ 14.3	228,000	15.1	1低（80），1中高（200），1住（200），近商（200），準工（200）
沖町	54,799	15,900.52	29.0	40.0	▲ 11.0	138,000	11.5	1低（80），1住（200）
小和田	1,795	780.96	43.5	47.3	▲ 3.8	3,000	26.0	準工（200）
中央	100,515	28,556.00	28.4	35.7	▲ 7.2	197,000	14.5	2住（200），近商（200），準工（200）
田島	63,001	19,555.81	31.0	42.7	▲ 11.6	121,000	16.2	1中高（200），1住（200），近商（200）
中田島	15,367	5,100.13	33.2	39.5	▲ 6.3	21,000	24.3	1住（200），近商（200）
牧ヶ原	77,522	32,781.26	42.3	45.7	▲ 3.4	131,000	25.0	1低（80），1中高（200），1住（200），準工（200）
南原	39,199	14,519.53	37.0	38.7	▲ 1.6	66,000	22.0	1低（80）
北組	4,898	2,631.55	53.7	19.7	34.1	7,000	37.6	近商（200）
合計	480,092	154,208.45	32.1	40.5	▲ 8.4	920,000	16.8	

資料：家屋課税台帳、県財産活用課、村有財産台帳他

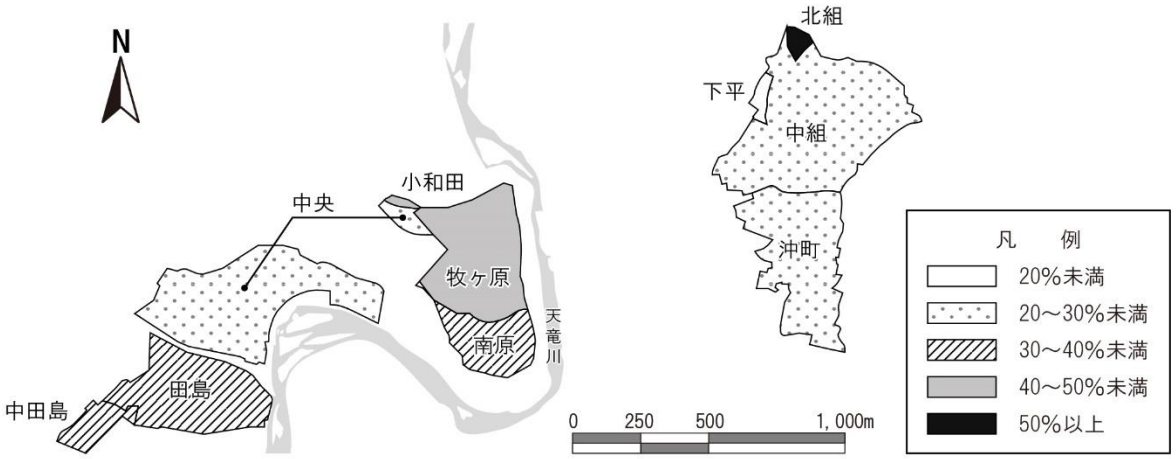


図 35　地区別容積率現況（ネット容積率）

C0401-5　地区別、用途別の建物延床面積現況

用途地域指定区域における用途別の建物延床面積をみると、154,208.45 ㎡のうち住宅が 52.5%を占めており、次いでその他が 26.1%、専用工場・倉庫が 11.6%となっている。

地区別にみると、南原、中田島、沖町、田島ではほとんどを住宅が占めており、公共施設が多い牧ヶ原、中組ではその他の占める割合が他の地区に比べ高い。また、国道 153 号が位置し沿道に商・工業施設が多い中央では専用工場・倉庫や専用店舗・事務所の占める割合が高くなっている。

表 30　地区別用途別建物延床面積現況

地区名		住　宅	工場・倉庫併用住宅	専用工場・倉庫	店舗・事務所併用住宅	専用店舗・事務所	そ の 他	合　計
下　平	延面積(㎡)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	比　率(%)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
中　組	延面積(㎡)	14,982.53	59.50	2,276.33	1,293.47	3,462.77	12,308.09	34,382.69
	比　率(%)	43.6	0.2	6.6	3.8	10.1	35.8	100.0
沖　町	延面積(㎡)	14,610.95	0.00	377.18	318.17	275.38	318.84	15,900.52
	比　率(%)	91.9	0.0	2.4	2.0	1.7	2.0	100.0
小和田	延面積(㎡)	0.00	0.00	672.74	0.00	108.22	0.00	780.96
	比　率(%)	0.0	0.0	86.1	0.0	13.9	0.0	100.0
中　央	延面積(㎡)	10,404.34	0.00	10,800.84	527.77	6,091.68	731.37	28,556.00
	比　率(%)	36.4	0.0	37.8	1.8	21.3	2.6	100.0
田　島	延面積(㎡)	16,715.49	0.00	117.10	1,564.32	716.70	442.20	19,555.81
	比　率(%)	85.5	0.0	0.6	8.0	3.7	2.3	100.0
中田島	延面積(㎡)	4,748.09	0.00	352.04	0.00	0.00	0.00	5,100.13
	比　率(%)	93.1	0.0	6.9	0.0	0.0	0.0	100.0
牧ヶ原	延面積(㎡)	4,729.77	0.00	1,257.98	117.55	280.37	26,395.59	32,781.26
	比　率(%)	14.4	0.0	3.8	0.4	0.9	80.5	100.0
南　原	延面積(㎡)	14,455.05	0.00	0.00	0.00	9.91	54.57	14,519.53
	比　率(%)	99.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	100.0
北　組	延面積(㎡)	328.13	0.00	2,026.94	0.00	276.48	0.00	2,631.55
	比　率(%)	12.5	0.0	77.0	0.0	10.5	0.0	100.0
合　計	延面積(㎡)	80,974.35	59.50	17,881.15	3,821.28	11,221.51	40,250.66	154,208.45
	比　率(%)	52.5	0.04	11.6	2.5	7.3	26.1	100.0

家屋課税台帳、県財産活用課、村有財産台帳他

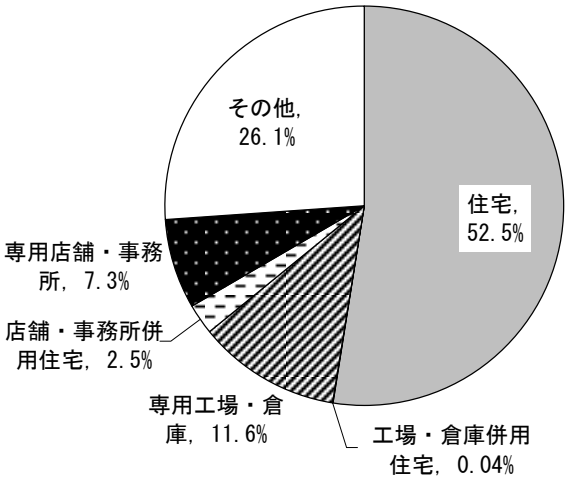


図 36　用途別建物延床面積構成比（用途地域指定区域）

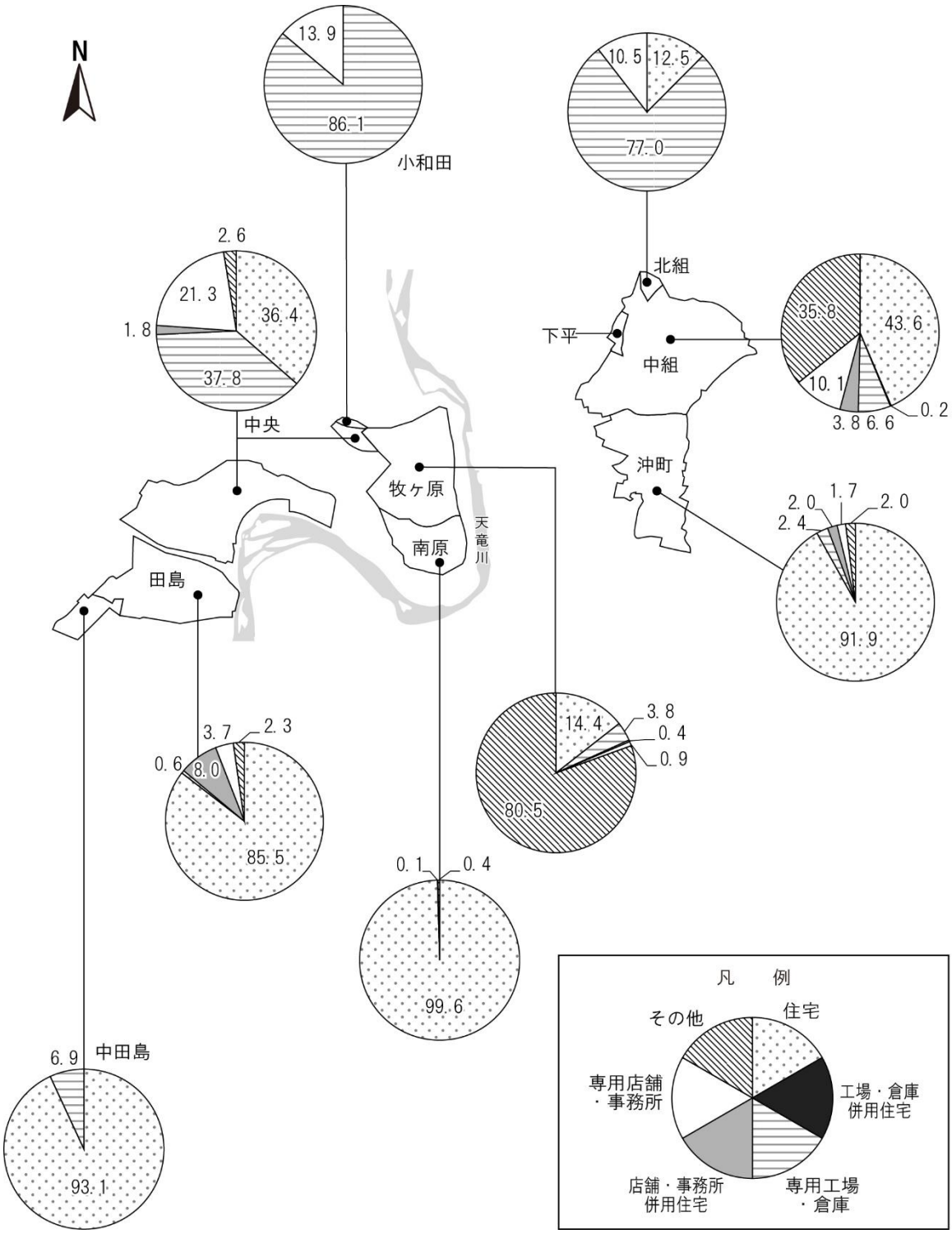


図 37　地区別用途別延床面積構成比

C0401-6　建物年齢別現況

用途地域指定区域における建物年齢別現況は、30 年以上（平成元年以前）が 676 棟と全体の 58.0%を占め、そのうち昭和 56 年以前は 487 棟、41.8%となっている。

昭和 56 年以前の建物棟数割合を地区別でみると、中田島が 84.6%と最も高く、続いて田島が 59.6%、沖町が 51.5%と高い。

表 31　地区別建物年齢別現況

地区名	全建物棟数（棟）	0～4年		5～9年		10～14年		15～19年		20～24年		25～29年		30年以上			
														S57年以降		S56年以前	
		棟数（棟）	比率（%）	棟数（棟）	比率（%）	棟数（棟）	比率（%）	棟数（棟）	比率（%）	棟数（棟）	比率（%）	棟数（棟）	比率（%）	棟数（棟）	比率（%）	棟数（棟）	比率（%）
下　平	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
中　組	260	7	2.7	6	2.3	4	1.5	6	2.3	30	11.5	46	17.7	41	15.8	120	46.2
沖　町	206	3	1.5	8	3.9	11	5.3	14	6.8	12	5.8	16	7.8	36	17.5	106	51.5
小和田	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	100.0	0	0.0
中　央	177	4	2.3	10	5.6	9	5.1	16	9.0	19	10.7	28	15.8	34	19.2	57	32.2
田　島	235	6	2.6	1	0.4	8	3.4	10	4.3	17	7.2	19	8.1	34	14.5	140	59.6
中田島	65	1	1.5	2	3.1	1	1.5	2	3.1	1	1.5	1	1.5	2	3.1	55	84.6
牧ヶ原	76	4	5.3	3	3.9	1	1.3	4	5.3	12	15.8	39	51.3	6	7.9	7	9.2
南　原	135	2	1.5	5	3.7	6	4.4	6	4.4	32	23.7	54	40.0	30	22.2	0	0.0
北　組	7	3	42.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	28.6	2	28.6
合　計	1,165	30	2.6	35	3.0	40	3.4	58	5.0	123	10.6	203	17.4	189	16.2	487	41.8

資料：家屋課税台帳、県財産活用課、村有財産台帳他

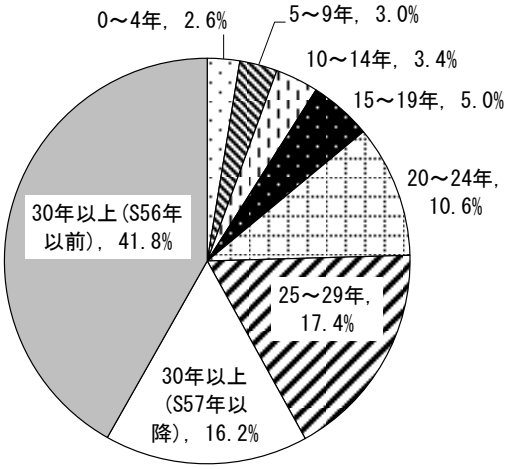


図 38　建物年齢別構成比（用途地域指定区域）

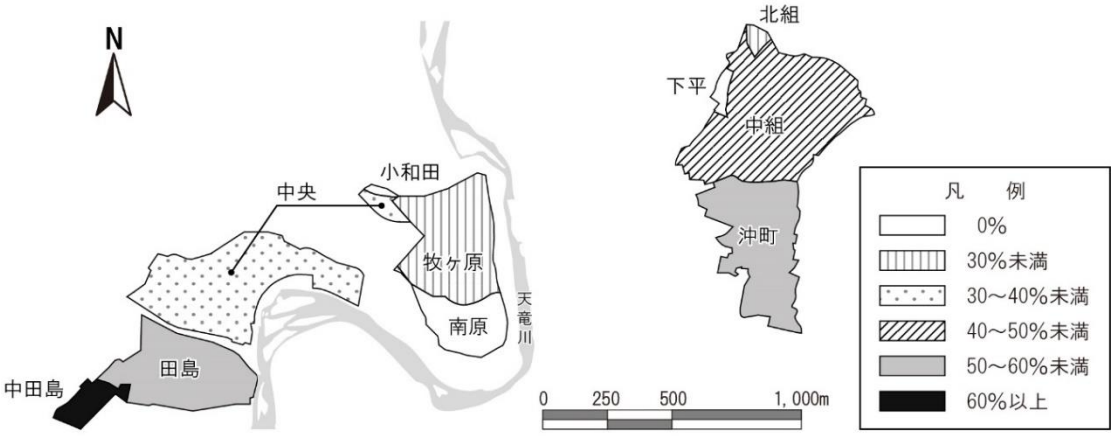


図 39　昭和 56 年以前の地区別建物棟数構成比

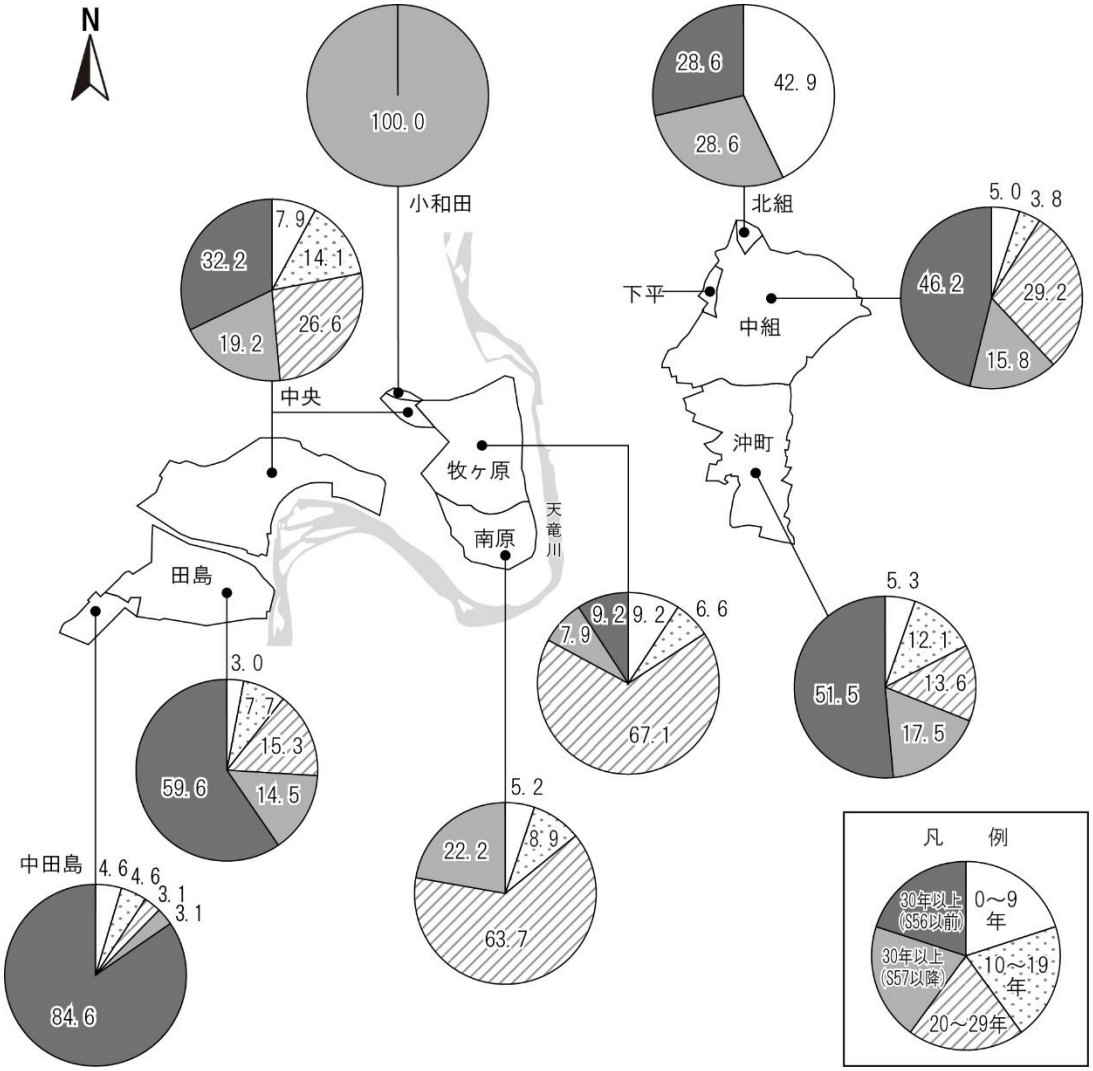


図 40　地区別建物年齢別構成比

C0402　大規模小売店舗等の立地状況

店舗面積が 3,000 ㎡以上の大規模小売店舗は村内に立地していない。

⑤　都市施設

C0501　都市施設の位置、内容等

中川村の都市施設として、都市計画道路、都市計画公園、公共下水道等が計画決定されている。

都市計画道路は昭和 55 年に３路線が計画決定されている。暫定改良区間はあるが、都市計画道路としての整備率は０％である。

都市計画公園は、地区公園として大草城址公園が計画決定されており、平成５年に事業が完了している。また、未計画決定の都市公園として、陣馬形の森公園、天の中川河川公園、坂戸公園、桑原公園、かつらの丘公園、田島公園、南田島公園、滝戸川公園の８ヶ所（46.69ha）を開設している。

その他の都市施設として、公共下水道が 162ha、汚物処理場が 1.2ha、ごみ焼却場が 2.5ha 計画決定されている。

表 32　都市施設の整備状況

決定年月日	都市施設名称	都市計画決定事項	事業期間	備考
都市計画道路				
S55. 4. 3	3.4.1 中川１号線	延長1,000m　幅員16m　田島～中央		未整備
H13. 2.26		（車線数の追加）　2車線		
S55. 4. 3	3.4.2 中川２号線	延長1,150m　幅員16m　中組～沖町		未整備
H13. 2.26		（車線数の追加）　2車線		
H13. 6.19	3.5.2 中川２号線	（名称及び幅員の変更）　幅員12m		
S55. 4. 3	3.5.7 中川３号線	延長2,200m　幅員12m　中央～牧ヶ原～下平		未整備
H13. 1. 9		（車線数の追加）　2車線		
都市計画公園				
S57. 7.15	大草城址公園	地区公園　面積4.57ha	S57～H5	整備済み
公共下水道				
H 5.11.10	大草処理区	計画区域57ha　計画処理人口1,200人		一部未整備
H 9. 3. 3				
H 9. 3. 3	片桐処理区	計画区域105ha　計画処理人口2,300人		一部未整備
汚物処理場				
S55. 9.20	伊南行政組合衛生センター※	面積1.2ha	S56.1～S57.11	整備済み
ごみ焼却場				
H27. 1.23	新ごみ中間処理施設※	面積2.5ha	H28.2～H31.3	整備済み

資料：庁内資料

注）都市施設名称の「※」は計画決定のみで中川村に施設は存在しない

⑥ 交　通

C0601　主要な幹線の断面交通量・混雑度・旅行速度

平成 27 年の断面交通量は、中川村を南北に走る一般国道 153 号と主要地方道伊那生田飯田線で交通量が多く、前者で 5,816 台/12h、後者で 2,040 台/12h となっている。また、この２路線を結ぶ一般県道大草坂戸線で 2,036 台/12h となっている。

混雑時平均旅行速度は一般県道大草坂戸線で 30.0km/h 未満であるが、その他の路線は 30.0km/h 以上となっている。

表 33　主要道路断面交通量・混雑度・旅行速度

路　線　名	観測地点名	平　日 12時間 交通量 (台)	平　日 24時間 交通量 (台)	大型車 混入率 (%)	混雑度	混雑時平均 旅行速度 (km/h)	位置図 対　応 番　号
一般国道１５３号	上伊那郡中川村片桐	5,816	7,456	11.3	0.58	50.9	1
		5,816	7,456	11.3	0.58	43.2	2
		5,816	7,456	11.3	0.58	42.4	3
		5,816	7,456	11.3	0.58	46.9	4
主要地方道 伊那生田飯田線	上伊那郡飯島町日曽利7-4	475	542	27.6	1.25	*31.5*	5
	上伊那郡中川村大草5206	2,040	2,468	7.3	0.30	47.9	6
		2,040	2,468	7.3	0.30	51.2	7
		2,040	2,468	7.3	0.30	34.3	8
主要地方道 松川インター大鹿線	下伊那郡大鹿村大河原36-4	1,406	1,687	27.4	0.15	38.9	9
		1,406	1,687	27.4	0.15	*34.7*	10
一般県道西伊那線	駒ヶ根市中沢6150	72	97	0.0	0.05	*31.0*	11
一般県道大草坂戸線	上伊那郡中川村大草3280-7	2,036	2,443	7.5	0.33	28.5	12
一般県道北林飯島線	上伊那郡中川村葛島50	566	674	3.4	0.08	*35.5*	13
	上伊那郡中川村片桐6210	1,241	1,477	3.8	0.17	43.0	14

資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査

注）斜体は非計測（反対方向・他の時間帯の値で補完または平成 22 年道路交通センサスの値）

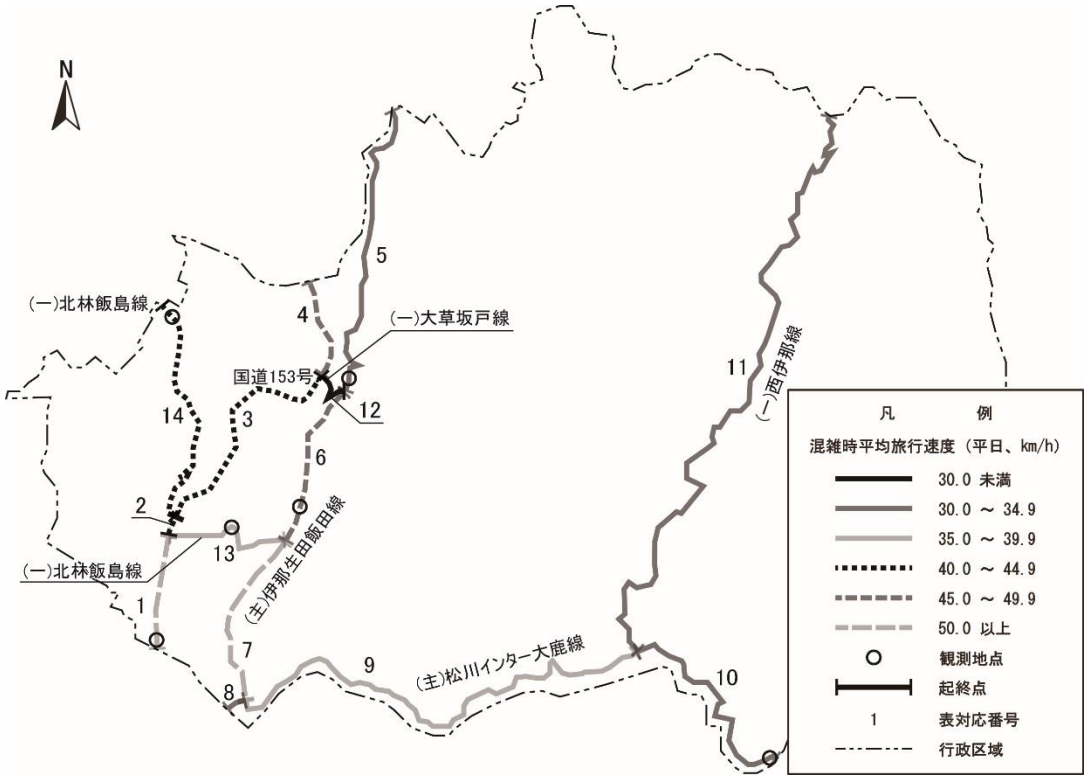


図 41　混雑時平均旅行速度分布図（平成 27 年）

C0603　鉄道・路面電車等の状況

中川村で唯一のＪＲ伊那田島駅は、現在無人駅である。一般の利用者は少なく、ほとんど学生の通学での利用と考えられる。

平成 20 年から平成 29 年までの一日平均乗降人員の推移をみると、12～36 人/日平均の間で推移している。

表 34　ＪＲ駅乗降人員（一日平均）

単位：人/日平均

年　次	伊那田島駅
平成20年	26
平成21年	22
平成22年	26
平成23年	28
平成24年	32
平成25年	36
平成26年	24
平成27年	14
平成28年	12
平成29年	16

資料：長野県統計書、ＪＲ東海サービス相談室
注）平成 22 年以降の数値は乗車数から推計した数値

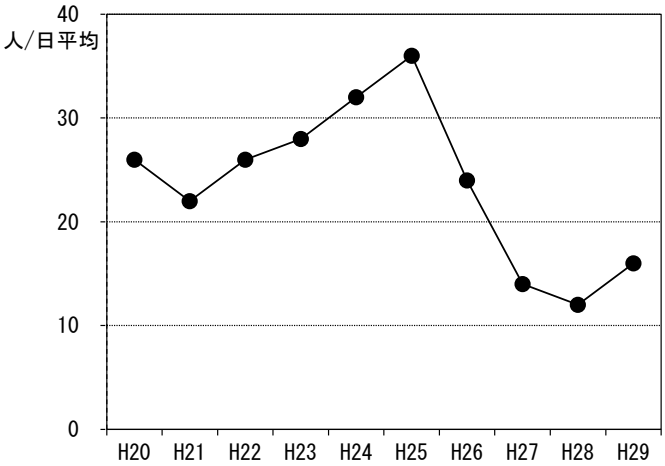


図 42　伊那田島駅乗降人員推移

C0604　バスの状況

中川村は、平成 15 年より地域の足として村営巡回バスを運行しており、地域住民に定着している。村内各所、村外ＪＲ駅、松川高校、下伊那赤十字病院等を結んでおり、高齢者の移動手段として、また、小中学生や高校生の通学バスにも利用されており、生活の足として欠かせない存在となっている。

また村営バスのほかに、登録した住民が利用できるＮＰＯタクシー「ぽかぽか」や社会福祉協議会が運行し、身体的な状況により外出が困難な方が利用できる福祉有償運送、移動手段のない高齢者及び障がい児者が利用できる福祉タクシー券があり、公共交通の一端を担っている。

⑦ 地　価

C0701　地価の状況

平成 12 年から平成 27 年までの地価変動の推移をみると、すべての調査地点において下落が続いており、特に直近５年間の下落幅が大きく、10～13%減少している。

平成 27 年の用途地域指定区域内の価格は約 5,700 円/㎡であり、用途地域指定外区域では 4,150 円/㎡と、１㎡あたり 1,500 円程度の差がある。

表 35　地価変動の推移

調査種別	番号	地番又は住居表示	年度	価格（円／㎡）	５年間の価格変化率（%）	土地利用の状況
地価公示	①	大草4540-12	H12	6,950		・住宅のほかに農地等が見られる傾斜地の住宅地域
			H17	6,810	▲ 2.0	・第一種中高層住居専用地域
			H22	6,600	▲ 3.1	・住宅地　建物用途：住宅
			H27	5,730	▲ 13.2	
	②	片桐1930-1	H12	6,800		・一般住宅、農家住宅等が混在する住宅地域
			H17	6,660	▲ 2.1	・第一種住居地域
			H22	6,500	▲ 2.4	・住宅地　建物用途：住宅
			H27	5,790	▲ 10.9	
長野県地価調査	③	片桐4971外2筆	H12	4,940		・農家住宅が散在する地域
			H17	4,800	▲ 2.8	・都市計画区域　　・住宅地　建物用途：住宅
			H22	4,700	▲ 2.1	・農家住宅が散在する傾斜のある住宅地域
			H27	4,150	▲ 11.7	・都市計画区域　　・住宅地　建物用途：住宅
	④	葛島555-2	H12	4,630		・農地の中に農家住宅が散在する農家住宅地域
			H17	4,500	▲ 4.3	・都市計画区域　　・住宅地　建物用途：住宅
			H22	－	－	
			H27	－	－	

資料：国土交通省地価公示、長野県地価調査

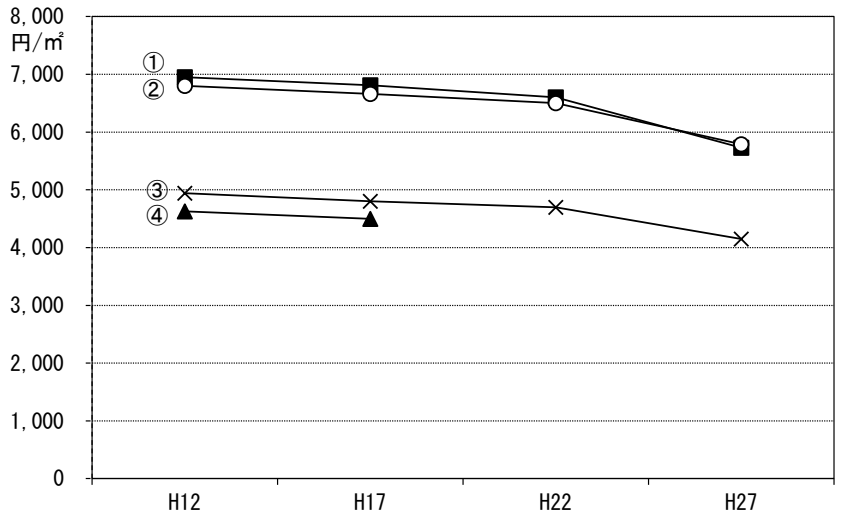


図 43　地価変動の推移

⑧ 自然的環境等

C0802 気象状況

平成 22 年から令和元年までの 10 年間における年平均気温は 10.7～11.9℃であり、最高気温は平成 25 年の 35.1℃、最低気温は平成 24 年の-14.1℃であった。

また、年間総降水量では、最高が平成 22 年の 2,880.5㎜、最低が平成 29 年の 1,489.5㎜となっている。

令和元年の月別の気温変化をみると、月最高気温と月最低気温の差は、最も小さい７月で 16.9℃、最も大きい５月で 29.7℃となっている。また、年間の気温較差をみると、最も気温が高い８月の最高気温が 34.0℃であるのに対し、最も気温が低い１月の最低気温は-8.7℃と、年間の気温較差が大きいことを示している。

表 36 気象概況

年	降水量（㎜）		降雪量（cm）	気温（℃）			最多風向	最大風速時風向
	総量	日最大降水量		平均	最高	最低		
平成22年	2,880.5	102.5	///	11.5	34.1	-10.5	南）	南
平成23年	2,081.5	123.0	///	10.9	33.7	-9.9	南）	北
平成24年	2,008.5	100.5	///	10.8	33.8	-14.1	南）	南南西
平成25年	1,681.5	79.0	///	11.2	35.1	-12.5	南）	北北西
平成26年	2,083.0	118.0	///	10.7	34.4	-10.0	南）	南南西
平成27年	2,197.0	110.5	///	11.5	33.8	-10.5	南）	南南西
平成28年	2,258.0	129.5	///	11.9	33.4	-13.4	南）	南南西
平成29年	1,489.5	55.0	///	10.8	32.7	-10.4	南）	南南西
平成30年	2,301.5	128.5	///	11.9	34.8	-11.5	南）	南南西
令和元年	1,692.0	71.5	///	11.8	34.0	-8.7	南）	南南東

資料：気象庁気象統計情報（地点：飯島）

注）値欄記号：「 ）」統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、例外を除いて正常値と同等に扱う（準正常値）、「///」欠測または観測を行っていない

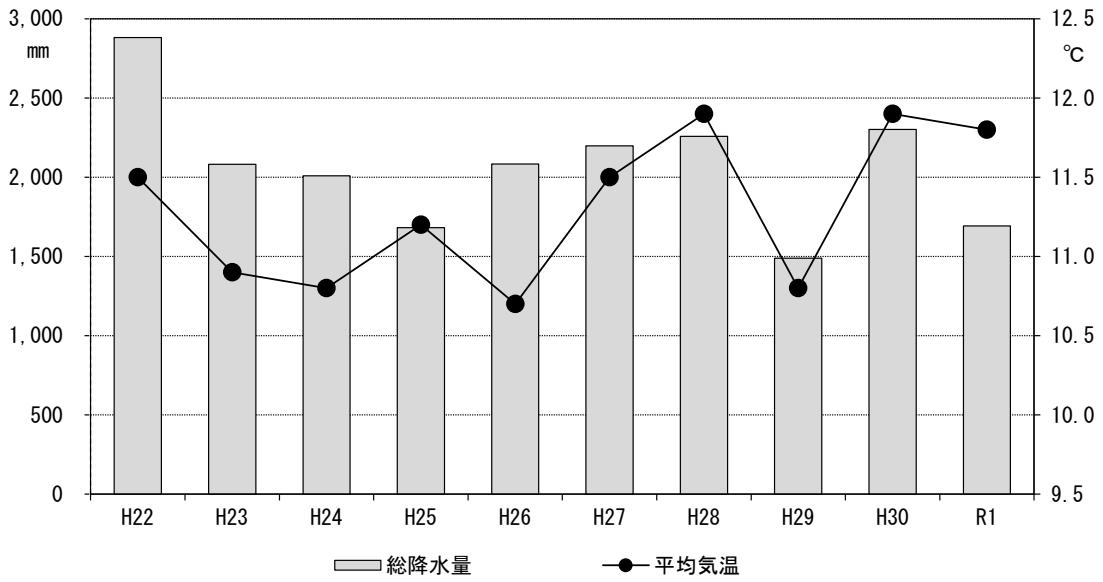


図 44 気象の推移

表 37　月別気象概要（令和元年）

月	降水量（mm）		降雪量（cm）	気温（℃）			最多風向	最大風速時風向
	総量	日最大降水量		平均	最高	最低		
1月	21.5	11.0	///	-0.1	8.9	-8.7	北北西	南南東
2月	114.0	39.5	///	2.0	16.1	-6.9	北	南南東
3月	100.0	31.5	///	4.8	19.2	-3.8	南	南南東
4月	114.5	43.5	///	9.0	25.0	-3.6	南）	南南西
5月	129.5	71.5	///	14.9	30.2	0.5	南	南
6月	222.5	60.0	///	18.0	29.1	9.9	南	南南西
7月	280.5	59.5	///	21.5	33.1	16.2	南南東	南
8月	232.5	53.0	///	24.0	34.0	15.6	南）	南南西
9月	38.0	22.5	///	21.0	32.5	11.5	西北西	南南西
10月	277.0	54.0	///	15.2	27.1	7.1	北	北北東
11月	60.5	22.5	///	7.8	19.0	-2.1	北	南南東
12月	101.5	47.5	///	3.6	14.5	-4.4	南）	北北西

資料：気象庁気象統計情報（地点：飯島）

注）値欄記号：「 ）」統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、例外を除いて正常値と同等に扱う（準正常値）、「///」欠測または観測を行っていない

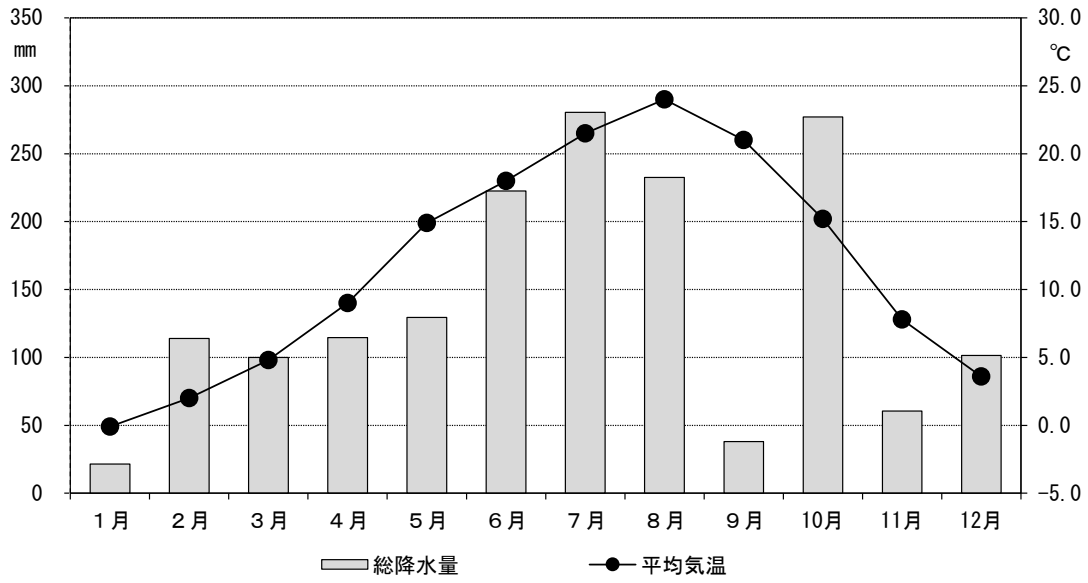


図 45　月別気温及び降水量の推移（令和元年）

C0803　緑の状況

用途地域指定区域の公共緑地は広場、運動場が 2.0ha、公園、緑地が 1.8ha となっている。その他の緑地については、農地、牧草地その他これらに類するものが 23.9ha と最も多い。

一方、用途地域指定外区域の公共緑地はその他が 44.6ha と最も多く、これはキャンプ場が含まれるためである。その他の緑地は山林、原野その他これらに類するものが 2,991.9ha と最も多く、次いで農地、牧草地その他これらに類するものが 944.0ha となっている。

表 38　現存緑地の計量

単位：ha

		用途地域指定区域	用途地域指定外区域	都市計画区域
公共緑地	公園、緑地	1.8	13.2	15.0
	広場、運動場	2.0	4.5	6.5
	墓　園	0.0	0.0	0.0
	その他	0.0	44.6	44.6
その他の緑地	水面：河川、湖沼、水路	0.3	129.1	129.4
	水辺：海浜、河岸、湖畔	1.1	105.7	106.8
	山林、原野その他これらに類するもの	1.7	2,991.9	2,993.6
	農地、牧草地その他これらに類するもの	23.9	944.0	967.9
	社寺、境内地、墓地その他これらに類するもの	0.4	13.9	14.3
	給排水その他処理施設等の公共公益施設付属緑地	0.0	1.1	1.1
	遊園地、私設公園、私設分区園その他これらに類する民営施設	0.0	0.0	0.0
	共同住宅緑地、工場緑地その他これらに類する施設	0.0	0.0	0.0
	学校、企業厚生施設その他これらに類する施設	4.8	3.2	8.0
	林業試験場、農事試験場その他これらに類する施設	0.0	0.0	0.0

資料：緑地総括図

⑨　公害及び災害

C0901　災害の発生状況

中川村は過去に大正 12 年の洪水をはじめとして、昭和 36 年梅雨前線豪雨（三六災害）、昭和 58 年集中豪雨により、大きな被害を被っている。

平成 22 年から令和元年の過去 10 年間では、人命に関わる大規模災害は発生していないが、平成 28 年に豪雨によるがけ崩れが１ヶ所、平成 30 年に台風 24 号によるがけ崩れが３ヶ所発生している。

表 39　水害発生状況

発 生 年 月 日	被害面積（ha）	備　考
H28. 5.10～H28. 5.11　豪雨	0.21	がけ崩れ
H30. 9.30～H30.10. 1　台風24号	0.69	がけ崩れ
H30. 9.30～H30.10. 1　台風24号	0.22	がけ崩れ
H30. 9.30～H30.10. 1　台風24号	0.15	がけ崩れ

資料：災害復旧工事台帳

C0902　防災拠点・避難場所

防災拠点・避難場所については、指定避難所が 12 ヶ所、福祉・避難施設が４ヶ所、指定避難場所が５ヶ所、指定緊急避難場所が 32 ヶ所ある。

表 40　防災拠点・避難場所

名　　称	種　　別		収容可能人数（人）
中川東小学校	指定避難所	指定避難場所	1,060
中川西小学校	指定避難所	指定避難場所	920
中川中学校	指定避難所	指定避難場所	1,050
片桐保育所	指定避難所		340
中川村青年婦人会館・武道館	指定避難所		30
中川村高齢者創作館	指定避難所		30
葛島区民会館	指定避難所		80
中川村社会体育館	指定避難所	指定緊急避難場所	540
中川文化センター	指定避難所	指定緊急避難場所	900
片桐区民会館（介護予防センター西館）	指定避難所		90
中川村基幹集落センター	指定避難所	指定緊急避難場所	40
中川村転作促進研修センター（望岳荘大広間）	指定避難所		125
高齢者ディサービスセンターいわゆり荘	福祉・避難施設		50
特別養護老人ホーム越百園	福祉・避難施設		100
宅幼老所かつら	福祉・避難施設		50
望岳荘	福祉・避難施設		50
宅幼老所かつら(旧かつら保育園園庭)	指定避難場所		-
横前グラウンド	指定避難場所		-
中川東小学校体育館	指定緊急避難場所		260
中川中学校体育館	指定緊急避難場所		380
飯沼地区高齢者等支え合い拠点施設（飯沼会館）	指定緊急避難場所		60
美里多目的集会施設（美里集会所）	指定緊急避難場所		90
北組会館	指定緊急避難場所		70
下平集会所	指定緊急避難場所		60
八幡平会館	指定緊急避難場所		50
中組会館	指定緊急避難場所		120
沖町会館	指定緊急避難場所		70
三共会館	指定緊急避難場所		60
南陽地区高齢者等支え合い拠点施設（南陽会館）	指定緊急避難場所		50
桑原地区高齢者等支え合い拠点施設（桑原会館）	指定緊急避難場所		40
中川村地域交流センター（葛北公会堂）	指定緊急避難場所		90
柏原地区集会施設（柏原集会所）	指定緊急避難場所		70
渡場会館	指定緊急避難場所		70
柳沢会館	指定緊急避難場所		60
横前集落センター	指定緊急避難場所		90
針ヶ平地区高齢者等支え合い拠点施設（針ヶ平集会所）	指定緊急避難場所		60
小平地区高齢者等支え合い拠点施設（小平集会所）	指定緊急避難場所		50
竹ノ上集落センター	指定緊急避難場所		40
小和田集会所	指定緊急避難場所		60
中央会館	指定緊急避難場所		100
中通集会所	指定緊急避難場所		60
上前沢集会所	指定緊急避難場所		40
田島会館	指定緊急避難場所		100
中田島地区高齢者等支え合い拠点施設（中田島会館）	指定緊急避難場所		70
南田島会館	指定緊急避難場所		80
牧ヶ原コミュニティセンター	指定緊急避難場所		60
南原会館	指定緊急避難場所		100

資料：中川村地域防災計画、中川村防災ハザードマップ